退職前後世代の老後の生活に関する意識調査

ー介護・資産承継に対する認識についてー

2019年9月

MUFG資産形成研究所

三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFG

資料作成日：2019年7月16日

調査概要

（1）調査名：　退職前後世代の老後の生活に関する意識調査

（2）調査方法：　リサーチ会社を利用したWEBアンケート

（3）調査期間：　2019年1月22日(火)~1月25日(金)

（4）調査対象：　50歳以上の男女

（5）調査地域：　全国

（6）有効回答者数：　6,192サンプル

世帯金融資産600万円未満

		n数	%
男性	50-54歳	103	1.7
	55-59歳	103	1.7
	60-64歳	103	1.7
	65-69歳	103	1.7
	70-74歳	103	1.7
	75歳以上	103	1.7
女性	50-54歳	103	1.7
	55-59歳	103	1.7
	60-64歳	103	1.7
	65-69歳	103	1.7
	70-74歳	103	1.7
	75歳以上	103	1.7

世帯金融資産600万円以上3000万円未満

		n数	%
男性	50-54歳	258	4.2
	55-59歳	258	4.2
	60-64歳	258	4.2
	65-69歳	258	4.2
	70-74歳	258	4.2
	75歳以上	258	4.2
女性	50-54歳	258	4.2
	55-59歳	258	4.2
	60-64歳	258	4.2
	65-69歳	258	4.2
	70-74歳	258	4.2
	75歳以上	258	4.2

世帯金融資産3000万円以上

		n数	%
男性	50-54歳	155	2.5
	55-59歳	155	2.5
	60-64歳	155	2.5
	65-69歳	155	2.5
	70-74歳	155	2.5
	75歳以上	155	2.5
女性	50-54歳	155	2.5
	55-59歳	155	2.5
	60-64歳	155	2.5
	65-69歳	155	2.5
	70-74歳	155	2.5
	75歳以上	155	2.5

全体	6192	100

■世帯金融資産(600万円未満、600万円以上3000万円未満、3000万円以上)毎の構成比は、総務省家計調査報告(貯蓄・負債編)「高齢者世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布(二人以上の世帯)」/2017年を参考に割付。(世帯金融資産レンジ内の男女・年代別の構成比は、均等割付)

MUFG

はじめに

介護・資産承継に対する認識と傾向について

- 生活のための資産形成は、一生を通じた課題である。今回は、介護や資産承継について、アンケート調査を行った。そこで確認できたことは、**介護など自分のことで「家族に迷惑をかけたくない」「家族や子どもに資産を残したい」といった、家族思いの人間像**である。

- 一方で、**介護のことや資産のことで、家族と相談をしている人の比率は決して高いとは言えない。**
  介護や資産の承継は、誰にとってもいずれは起こり得るライフイベントであり、**早めに話し合いをしておくことが望ましい。**
  家族との相談なしのライフプランや資産形成では、自分の思いとは裏腹に、家族・子どもに負担をかけることになりかねないためである。

- 将来のための資産形成をなかなか始められない人が一定数存在することと同様に、**人は、実際にそのタイミングにならないと、自身の介護や資産承継についても考え始めない傾向がある**ように思われる。ある程度の年齢に達した際に、**外部からの適切な情報提供を元に、家族との相談をはじめとした準備を進められれば、自身が望む介護や資産承継の形を実現しやすくなるのではなかろうか。**

MUFG

目次

1.　介護に対する認識

1-1.　性別による認識の違い　・・・・・・・・・・ P.7

1-2.　介護経験者/未経験者による認識の違い　・・・・・・・・・・ P.15

1-3.　(ご参考)世帯類型による認識の違い　・・・・・・・・・・ P.26

2.　資産承継に対する認識　・・・・・・・・・・ P.31

MUFG

本レポートのポイント①

1

介護に対する認識

- 家族介護の現場においては、依然として女性が担う役割の方が大きいとの状況※から、介護に対しては「性別」による認識の差が生じると考えられる。また、介護を経験している人と、未経験の人とでは、認識の差がある可能性が高いと考えられる。この仮説に基づき、**第1章では「性別」および「介護経験の有無」別に分析をしている。**
- その結果、男女別では、女性は男性よりも不安を感じている人の割合が高く、その内容も現実的な内容に及ぶ傾向がある。**「家族(特に“子ども”)への負担」を心配する人の割合が相対的に高いことや、**自身の介護に際しては「施設」を希望する人が男性よりも多いことは女性の特徴として挙げられる。
- 介護経験の有無別では、**現に親の介護に携わっている人(介護経験者)は、現在健常な他の親とも介護に伴う身の回りの世話や資産管理について事前相談する傾向**があり、自身の介護についても家族との話し合いやエンディングノートの活用等、より具体的に自身が介護状態になることを想定し、準備している様子が伺える。

※：厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査の概況　Ⅳ 介護の状況」より

MUFG

本レポートのポイント②

2

資産承継に対する認識

- 資産承継を受ける立場としては、**承継を受ける資産の有無や金額について把握していない人も一定数存在**し、情報収集をはじめとした事前準備が不十分なケースもあると考えられる。また、相続や贈与に伴う困り事として「手続き」を挙げる人の割合が高く、この点については金融機関が提供する商品やサービス※の活用が、負担軽減の一助となると思われる。
- 資産承継をする立場としては、**配偶者や子どもに「資産を残したい」との意向を持つ人が多いが、男女を比較すると、女性が配偶者に資産を残したいとする人の割合は男性よりも低い。**資産承継をするに際しては、性別による寿命の差(女性の方が寿命が長い)等も影響していると考えられる。
- 資産承継は、その金額が大きい程、**老後のライフプランに与える影響も大きく、また資産の内容によっては、資産の承継を受ける/承継をする場合に関わらず、事前に準備や話し合いをした方が良いケースも想定される**ことから、可能な限り早い段階で関係者の意思確認等をすることが大切だと思われる。

※：暦年贈与や教育資金贈与等を管理手数料無料で代行する商品や、相続手続きを代行するサービスを提供している金融機関もある。

MUFG

1. 介護に対する認識

1-1. 性別による認識の違い

自身の介護に関するアンケート結果を中心に、「性別」による認識や意向の違いを紹介。

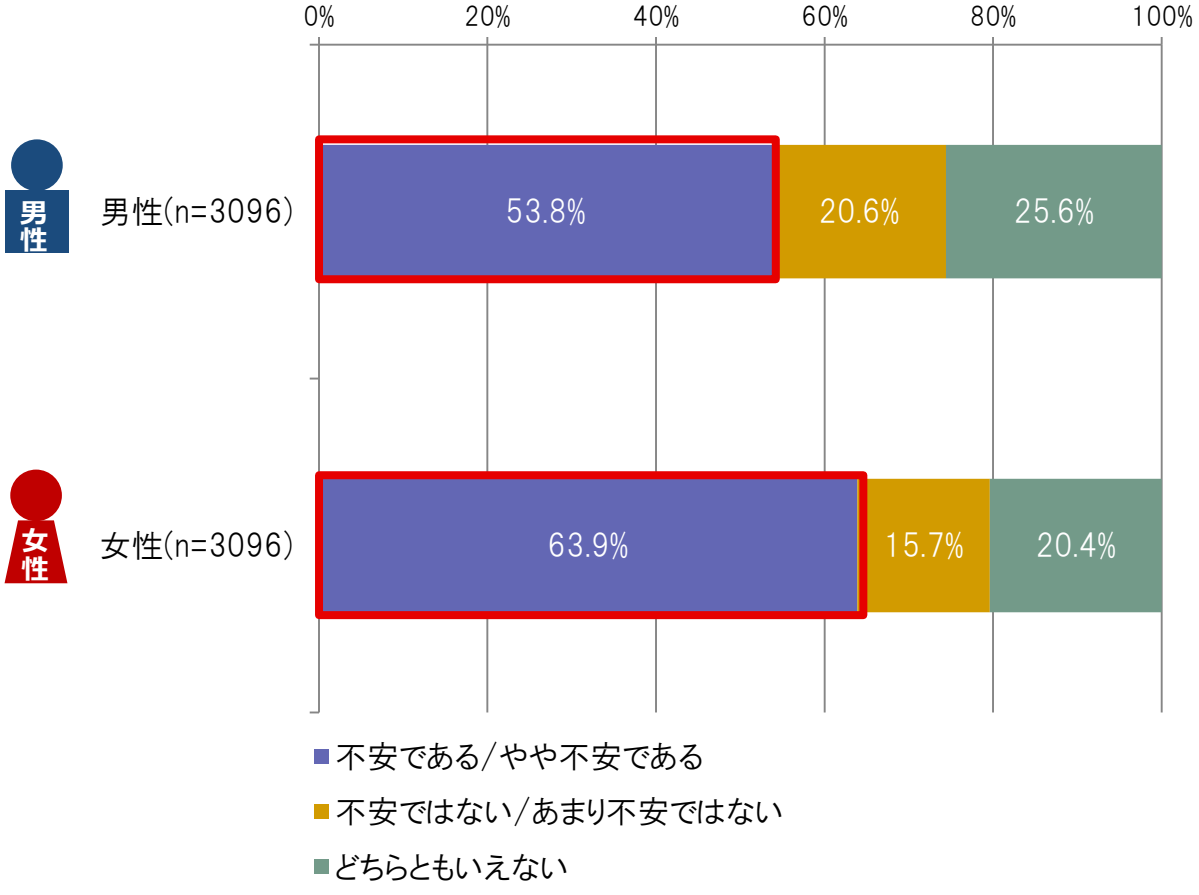
介護状態（認知症含む）を想定しての不安の有無

自身または配偶者が介護状態になった場合を想定した際の不安を感じている人が多い。

男女とも、過半数が自身または配偶者が介護状態等になった場合を想定しての不安を感じているが、男性よりも女性の方が、不安を感じている人の割合が高い。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合を想定した際の不安の有無

(n＝6,192)　(単回答)



所感

一般的に、家族介護の現場においては依然として女性が大きな役割を担う場面が多い(※)。また、女性の方が男性よりも生命寿命が長い傾向にある状況においては、女性が夫の介護を担う場面が多いと考えられる。さらに、女性自身が介護状態になる頃には、身近に頼れる人がいない可能性も考えられる。
女性はこのような状況を想定して不安を感じている可能性がある。

※：厚生労働省「平成28 年 国民生活基礎調査の概況　Ⅳ 介護の状況」より

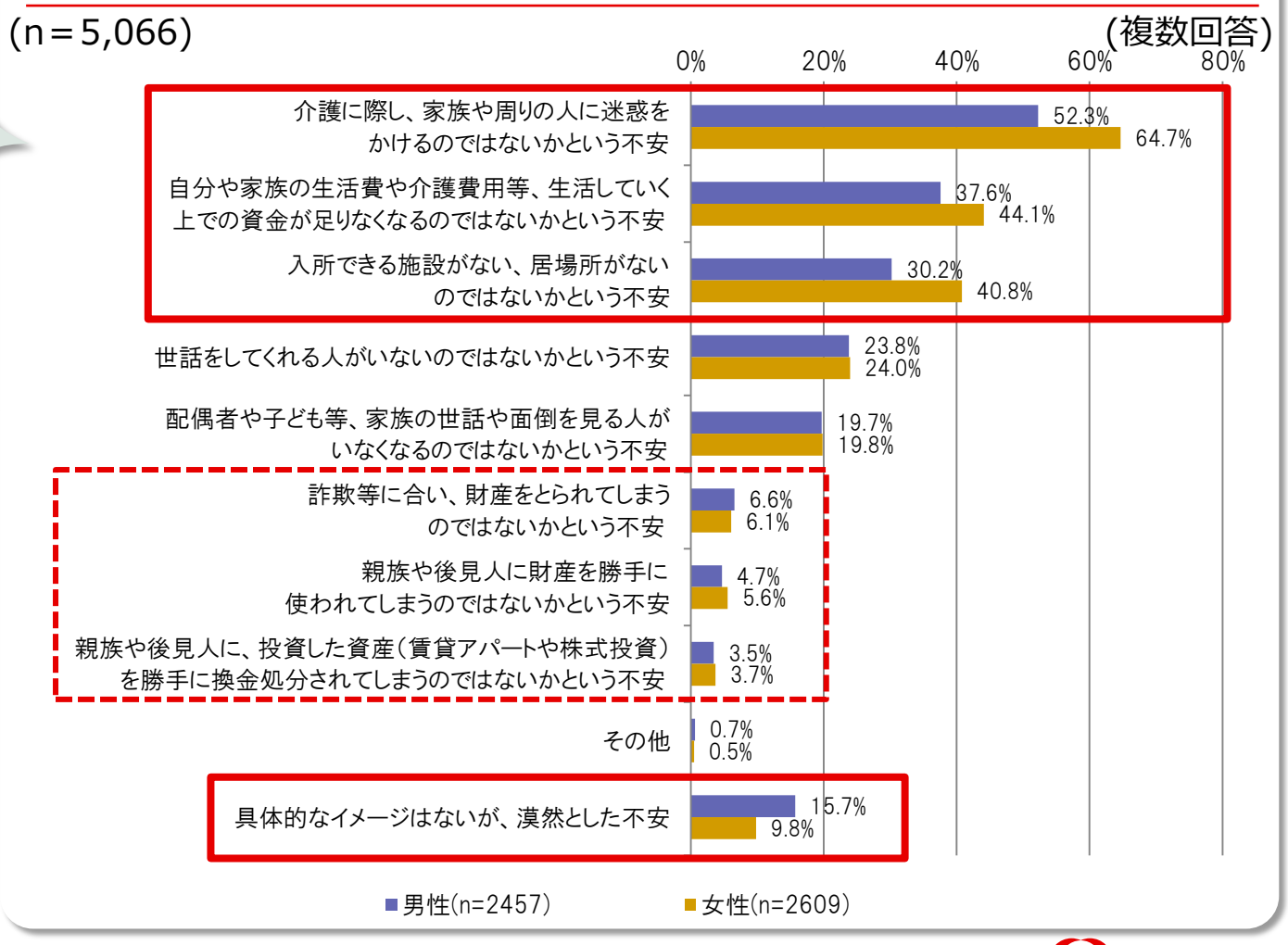
介護状態（認知症含む）を想定しての不安の内容

「家族への負担」「介護費用」「居場所の確保」等を不安に感じている人の割合が高い。

女性の方が、介護に関する現実的な問題について不安を感じている人が多い傾向がある。反対に、男性は「漠然とした不安」を挙げている人の割合が女性よりも高い傾向がある。

前頁(介護状態になった場合を想定した際の不安の有無)で
「不安である/やや不安である」「どちらともいえない」と回答した方へ

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合を想定した際の不安の内容



所感

男女を比較すると、介護の問題に対しては、女性の方がより現実的に考えていることが伺える。
一方、自身の資産を意に反して搾取または処分されてしまうといった不安を感じている人の割合は、男女ともにあまり高くないとの傾向も確認できる。

介護状態（認知症含む）を想定しての不安の内容 － 子の有無別

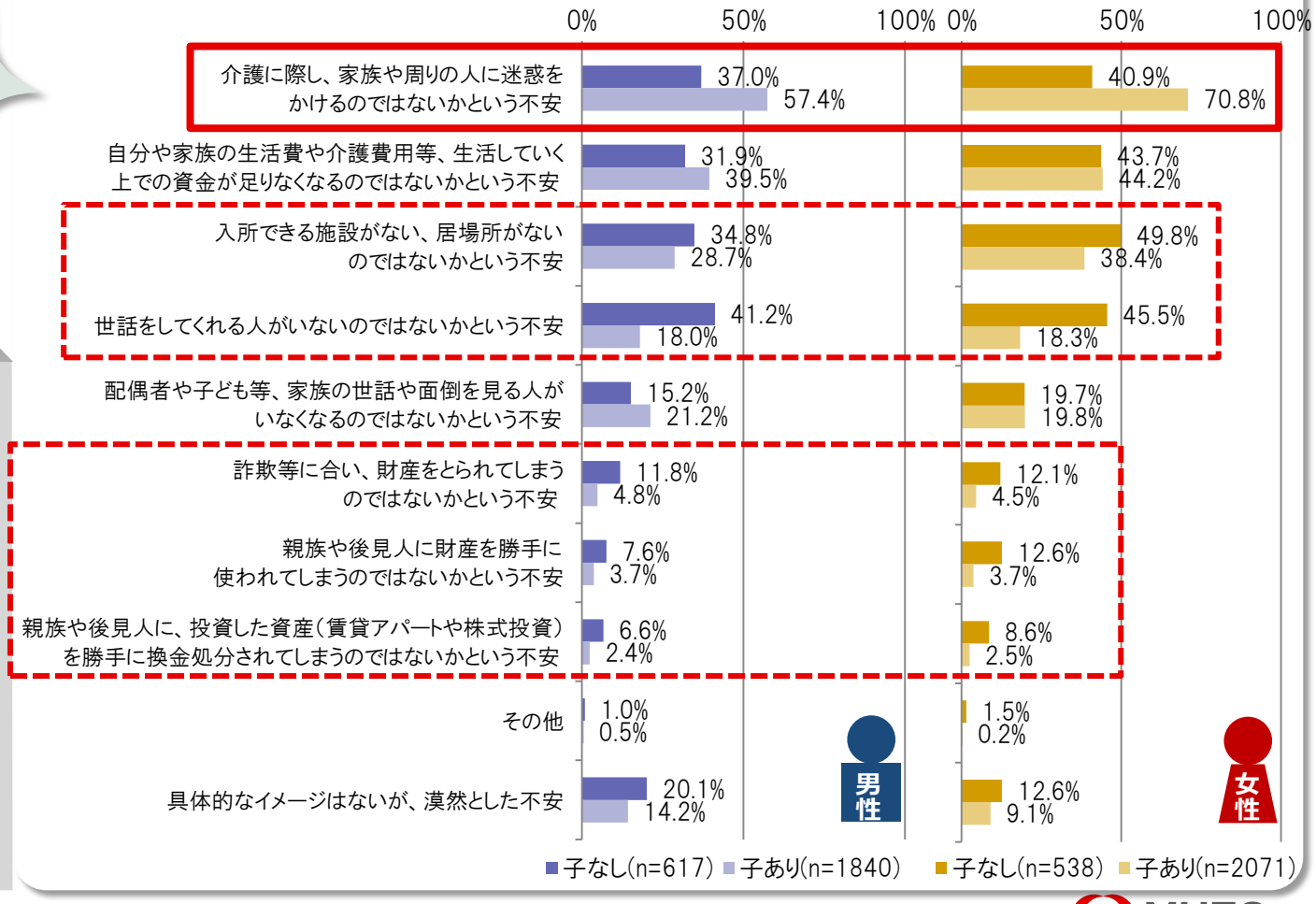
子どもがいる場合は、特に「家族への負担」に関して不安に感じる人の割合が高い。

子どもがいる人は、自身または配偶者の介護に際し、家族に負担をかけないかを不安に感じている人の割合が高い。この傾向は、特に女性において顕著に見られる。

8頁(介護状態になった場合を想定した際の不安の有無)で
「不安である/やや不安である」「どちらともいえない」と回答した方へ

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合を想定した際の不安の内容(子の有無別)

(n＝5,066)　(複数回答)



所感

子どもがいない場合は、居場所がない・世話をしてくれる人がいないといった不安に加え、自身の資産を意に反して搾取または処分されてしまうといった不安を感じている人の割合が、子どもがいる人と比較して高くなる傾向が確認できる。

MUFG

自身／配偶者の介護をどのようにしてほしいか

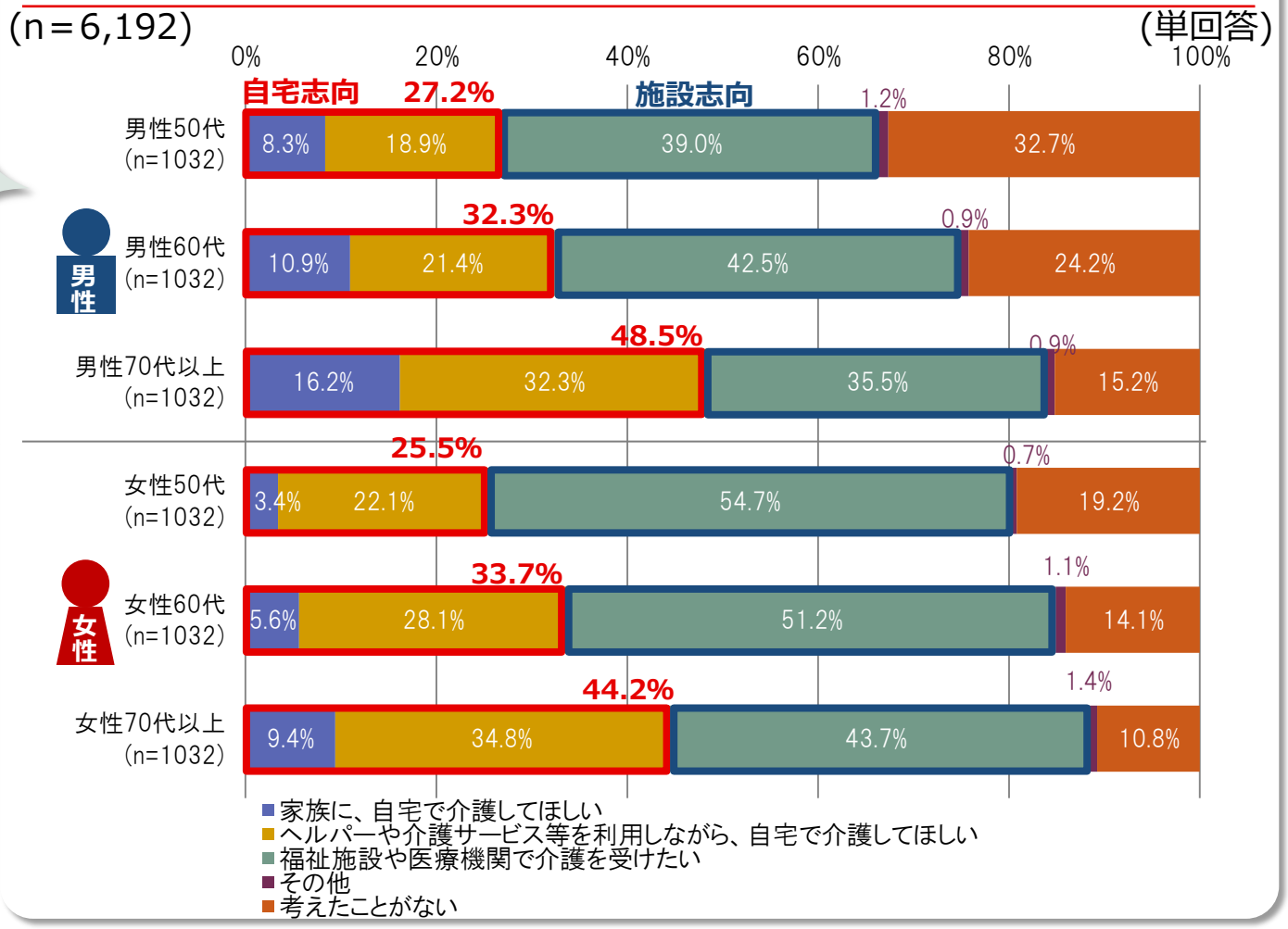
自身の介護については、年代が上がる程「施設」志向から「自宅」志向へ。

自身または配偶者の介護について、男女とも施設志向の人の割合が高いが、自宅志向の人の割合も年代が上がる程高まる傾向がある。
この傾向は、男性程顕著に見られる。

所感

男女とも施設志向の人の割合が高いが、女性の方が「施設で介護を受けたい」とする人の割合がより高い。
自宅志向・施設志向それぞれの理由を、次頁以降で確認する。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合の身の回りの世話を、どのようにしてほしいか



介護を「自宅」でしてほしい理由

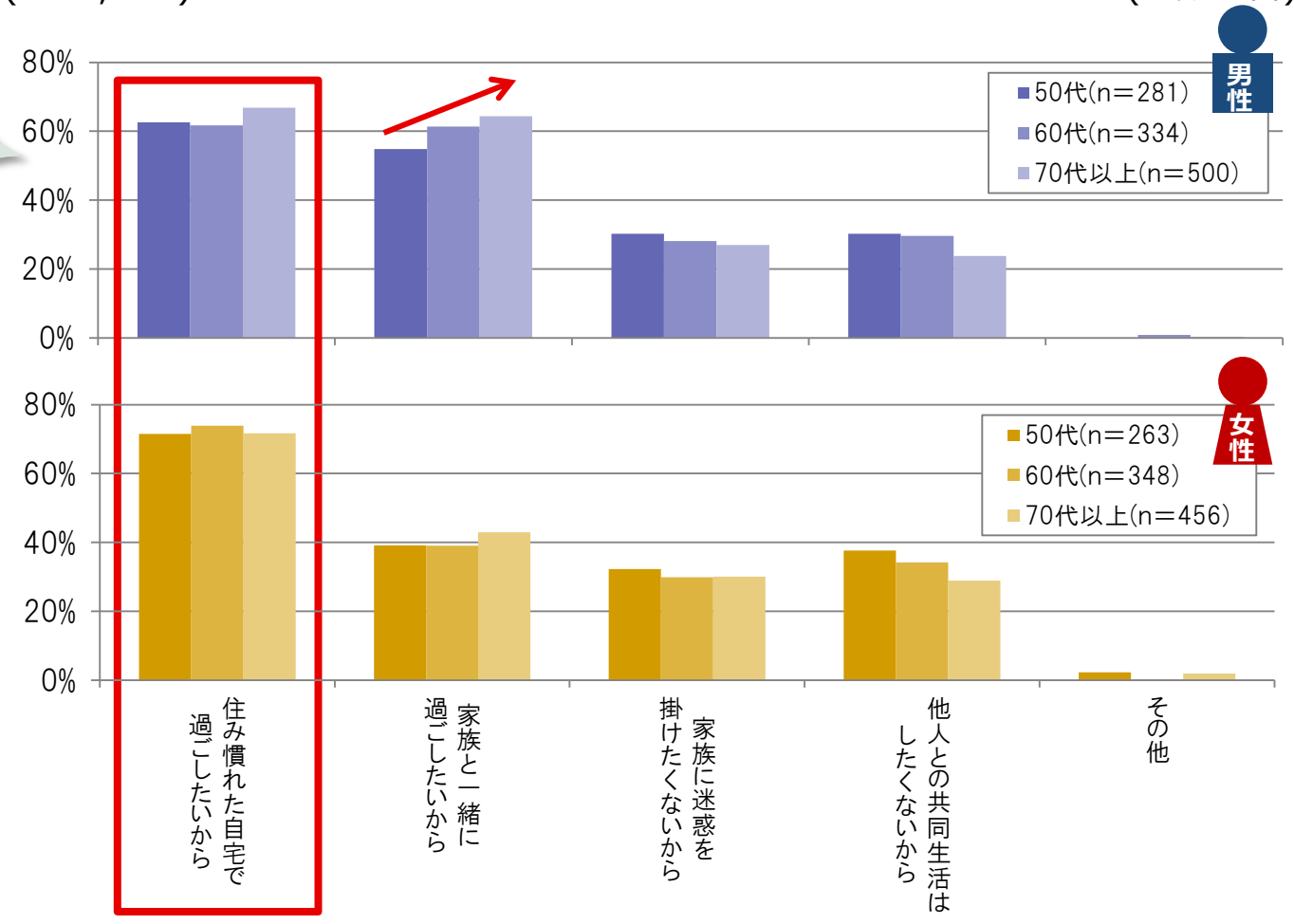
「住み慣れた自宅で過ごしたいから」が主な理由。

男女とも、「住み慣れた自宅で過ごしたい」ために、自宅での介護を希望する人が多い。

前頁(自身/配偶者の介護をどのようにしてほしいか)で、「家族に、自宅でしてほしい」「ヘルパーや介護サービス等を利用しながら、自宅で介護してほしい」と回答した方へ

介護を「自宅」でしてほしい主な理由

(n＝2,182)　(複数回答)



所感

男性の場合は、上記に加え、「家族と一緒に過ごしたい」との理由も、年代が上がる程増加する。

MUFG

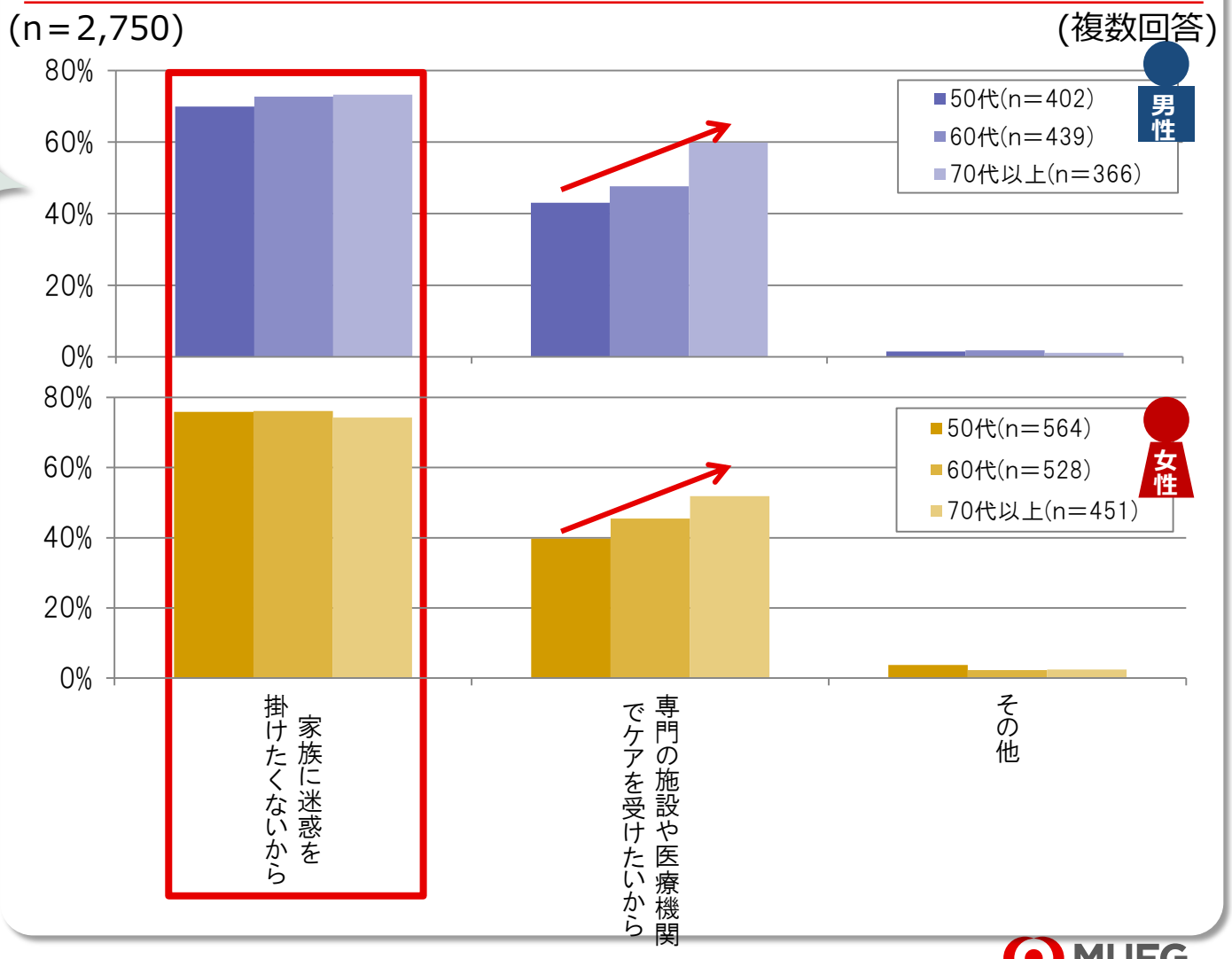
介護を「施設」でしてほしい理由

「家族に迷惑を掛けたくない」が主な理由。

男女とも、「家族に迷惑を掛けたくない」ために、施設での介護を希望する人が多い。
また、男女とも、年代が上がる程「専門施設でケアを受けたい」との意向を持つ人も高まる傾向がある。

11頁(自身/配偶者の介護をどのようにしてほしいか)で
「福祉施設や医療機関で介護を受けたい」と回答した方へ

介護を「施設」でしてほしい主な理由



所感

自身または配偶者の介護を施設でしてほしい理由を「専門施設でケアを受けたい」とする人の割合は、どの年代においても男性の方が高い傾向が確認できる。

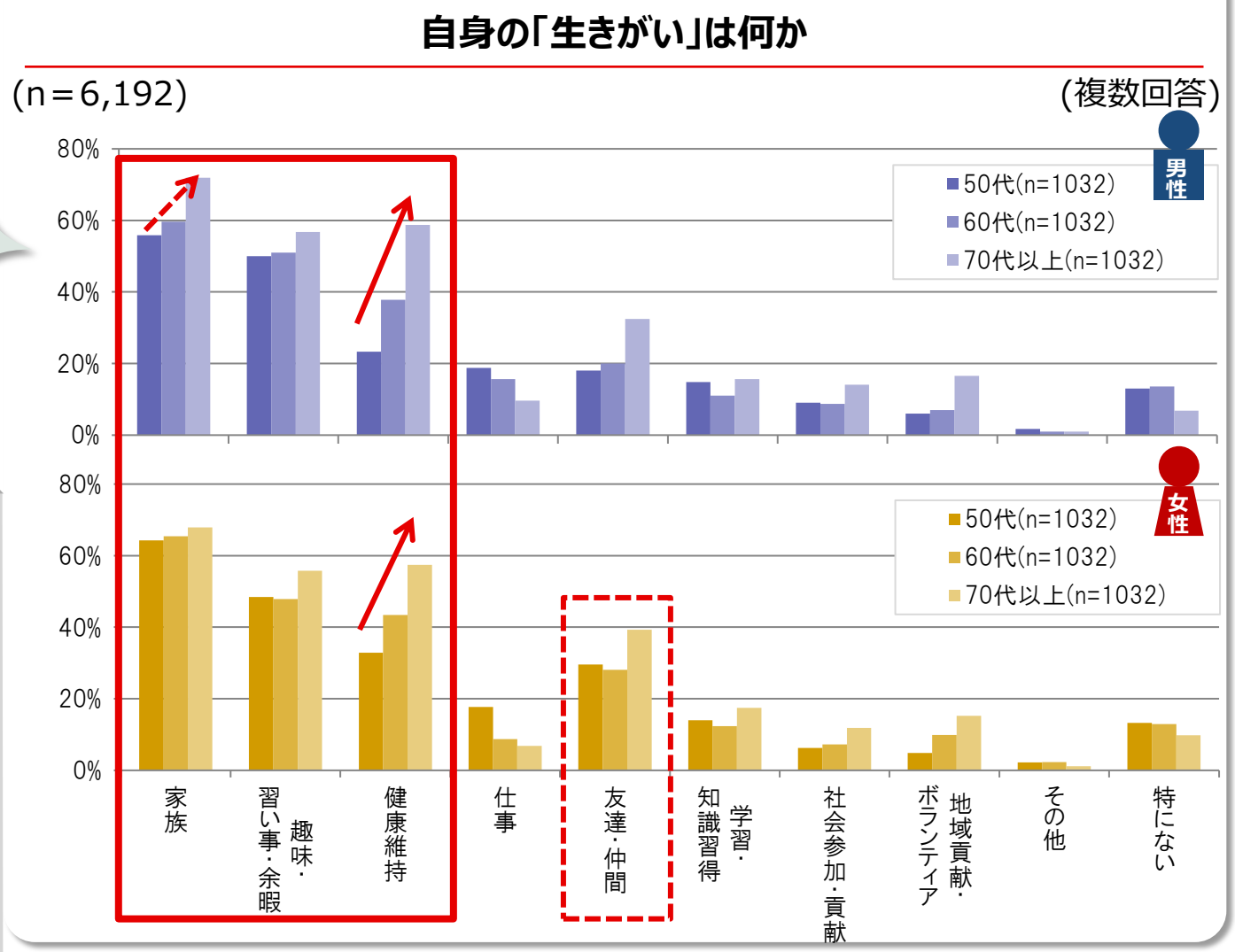
（ご参考）自身の生きがい

「家族」「趣味等」「健康維持」がTOP3。年代が上がる程、「健康維持」を生きがいとする人の割合が高まる。

「健康維持」を生きがいとする人は、年代が上がる程増加する。70代以上では、男女とも6割近い人が健康維持を生きがいだと回答。

所感

男女の違いとして、男性は年代が上がる程「家族」を生きがいとする人が増加し、女性はどの年代でも「友達」の存在が大きい点が特徴的。



MUFG

1-2. 介護経験者/未経験者による認識の違い

親の介護を経験している人、未経験の人別に、親の介護への姿勢や自身の介護への不安、心構えの傾向を紹介。

MUFG

介護未経験者/介護経験者の定義

- 本章では、介護未経験者・介護経験者を、**「現に親の介護に携わっている」**点を重視し、以下のとおり区分している。
- なお、親と離別または死別している人は、過去の介護経験の有無に関わらず対象外としている。

介護未経験者

自身および配偶者の**両親全員**が**「存命」かつ「介護状態・認知症ではない」**

介護経験者

自身または配偶者の両親のうち、**1名以上**が**「存命」だが「介護状態・認知症であり」、現在自身または配偶者が何らかの形で介護に携わっている**

MUFG

【親の介護について】

身の回りの世話に関する事前相談の実施有無

介護経験者は、現在健常な親とも介護に際する身の回りの世話について話し合っている。

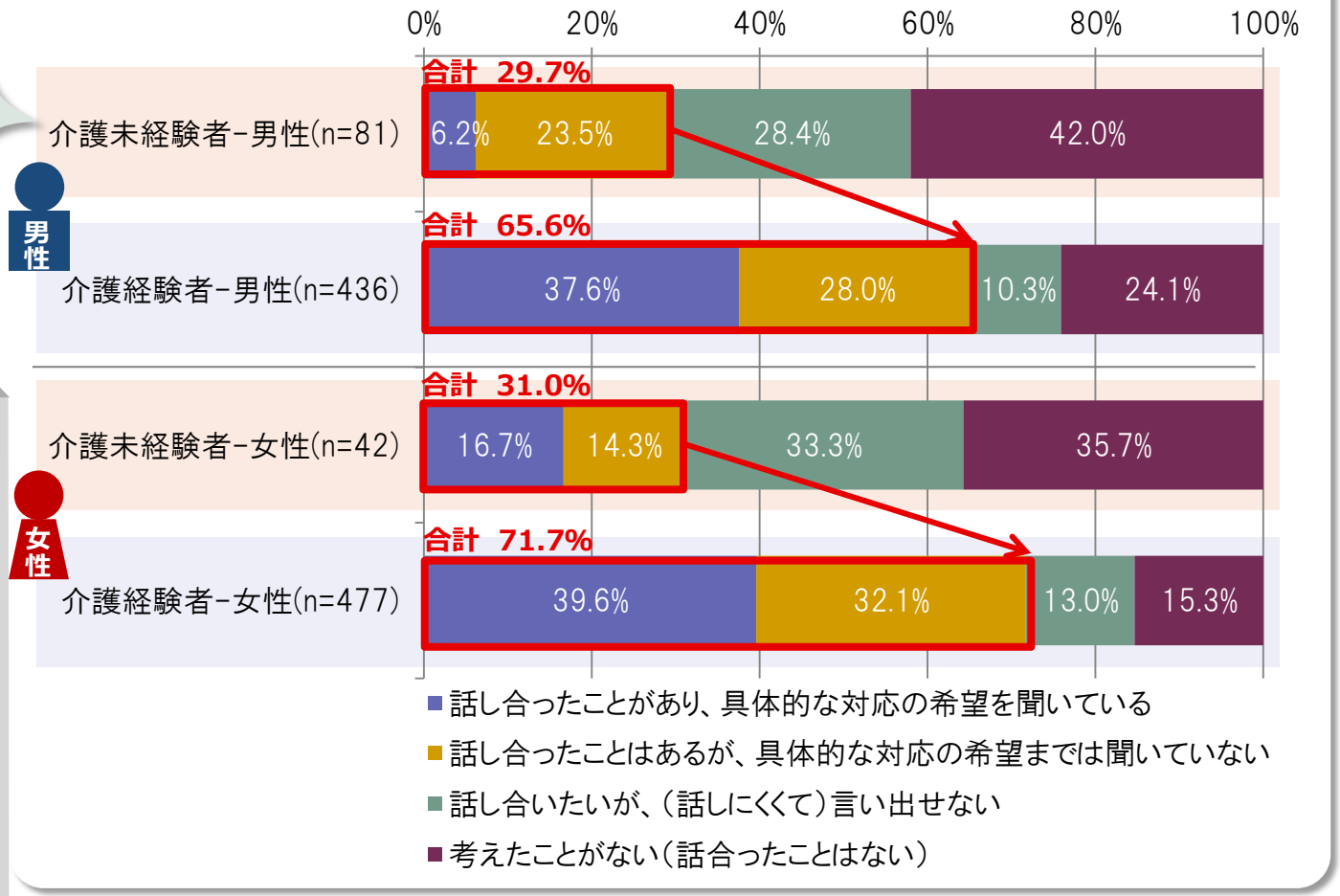
性別に関わらず、介護経験者の7割前後は、現在健常な自身の親と、将来の身の回りの世話について話し合っており、そのうちの過半数は具体的な希望まで聞いている。

所感

一方、介護未経験者は、性別に関わらず、7割前後が将来の身の回りの世話について話し合ったことがないと回答している。

自身の親が将来的に介護状態(認知症含む)になった際の"身の回りの世話"に関する、当該本人との事前相談の実施有無

(n＝1,036)　(単回答)



MUFG

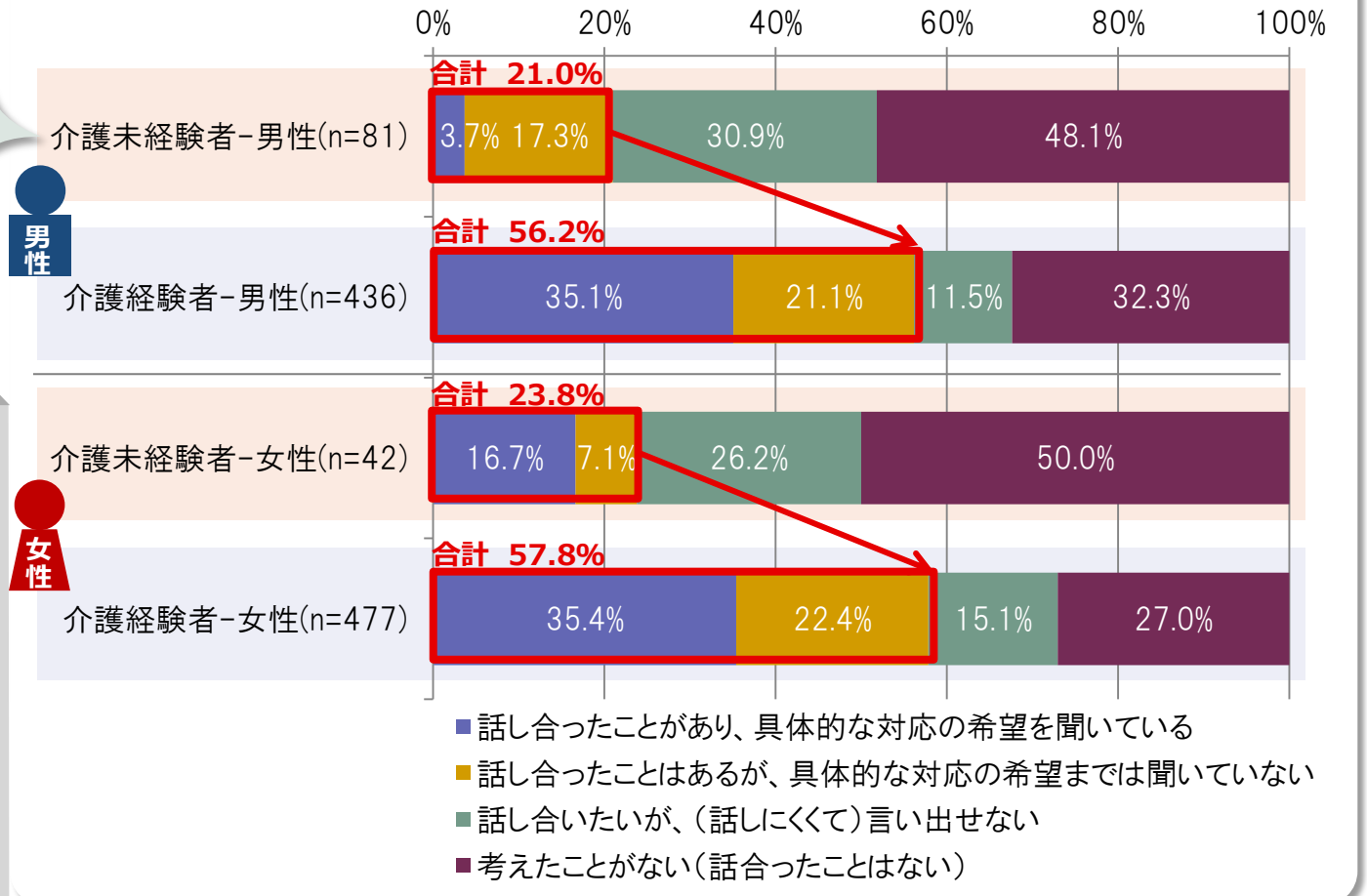
【親の介護について】
資産管理に関する事前相談の実施有無

身の回りの世話に関してと同様、介護経験者は、現在健常な親とも介護に際する資産管理について話し合っている。

性別に関わらず、介護経験者の6割弱は、現在健常な自身の親と将来の資産管理について話し合っており、そのうちの約6割は具体的な希望まで聞いている。

自身の親が将来的に介護状態(認知症含む)になった際の"資産管理"に関する、当該本人との事前相談の実施有無

(n＝1,036)　(単回答)



所感

介護経験者は、現在健常な親とも、将来の資産管理について話し合いをしている傾向が高い。ただし、資産管理について話し合っている人の割合は、身の回りの世話について話し合っている人の割合(前頁)程は高くない。

MUFG

【親の介護について】
介護に伴う困り事

「先の見通しが立たないこと」「兄弟間での負担の偏り」を困り事として挙げる人の割合が高い。

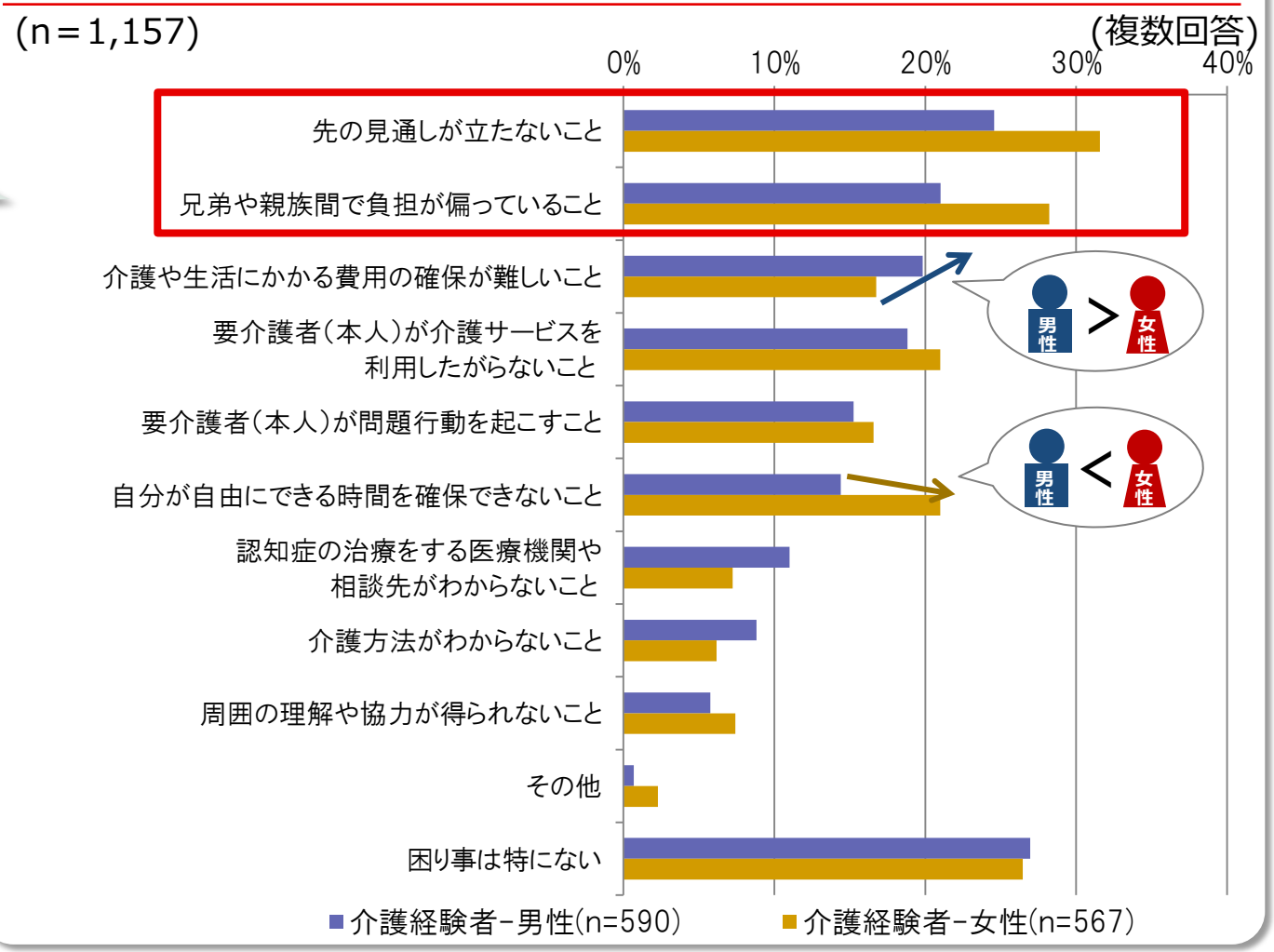
男女とも、「先の見通しが立たないこと」「兄弟間での負担の偏り」を困り事として挙げる人が多いが、女性の方がその割合が高い傾向が確認できる。

所感

その他、男女差が大きい項目を見てみると、男性は「介護費用の確保」といったお金の問題、女性は「自分の時間が確保できない」といった日頃の介護から生まれるような問題を挙げる傾向が確認できる。

介護経験者の方へ

自身または配偶者の親の介護(認知症含む)に伴う困り事



【自身/配偶者の介護について】

介護状態(認知症含む)を想定しての不安の有無

介護経験者の方が、自身または配偶者が介護状態になることへの不安を感じている人の割合が高い。

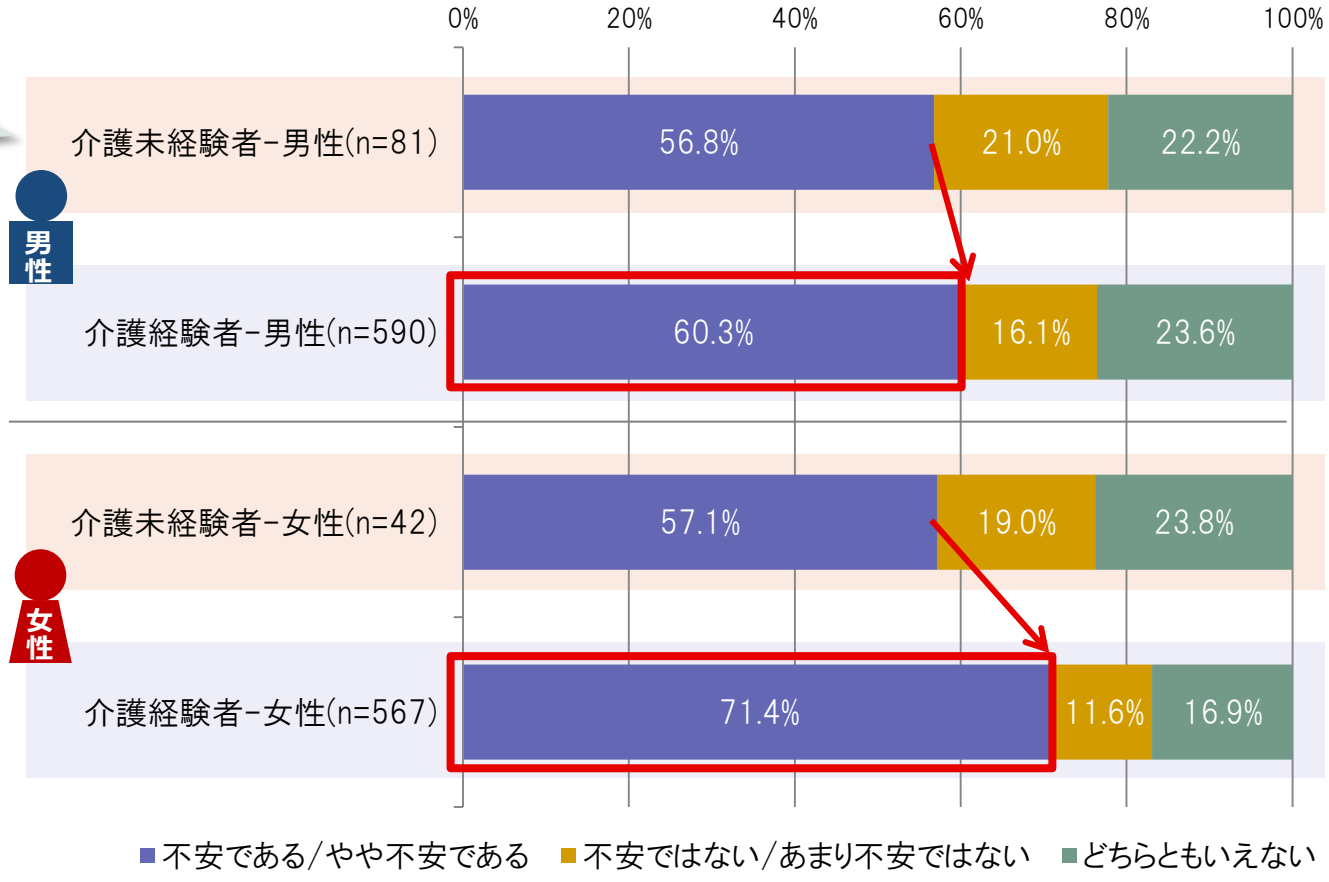
親の介護を経験したことがない人に比べ、親の介護に携わっている人は、自身または配偶者が介護状態や認知症になることに不安を感じる人の割合が高い。

所感

親の介護に携わると、介護に伴う苦労や困難を実際に経験することにより、自身または配偶者についても現実的に介護状態になることを想定するようになり、不安に感じる人が増えると考えられる。この傾向は、女性の方が顕著に見られる。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合を想定した際の不安の有無

(n＝1,280)　(単回答)



MUFG

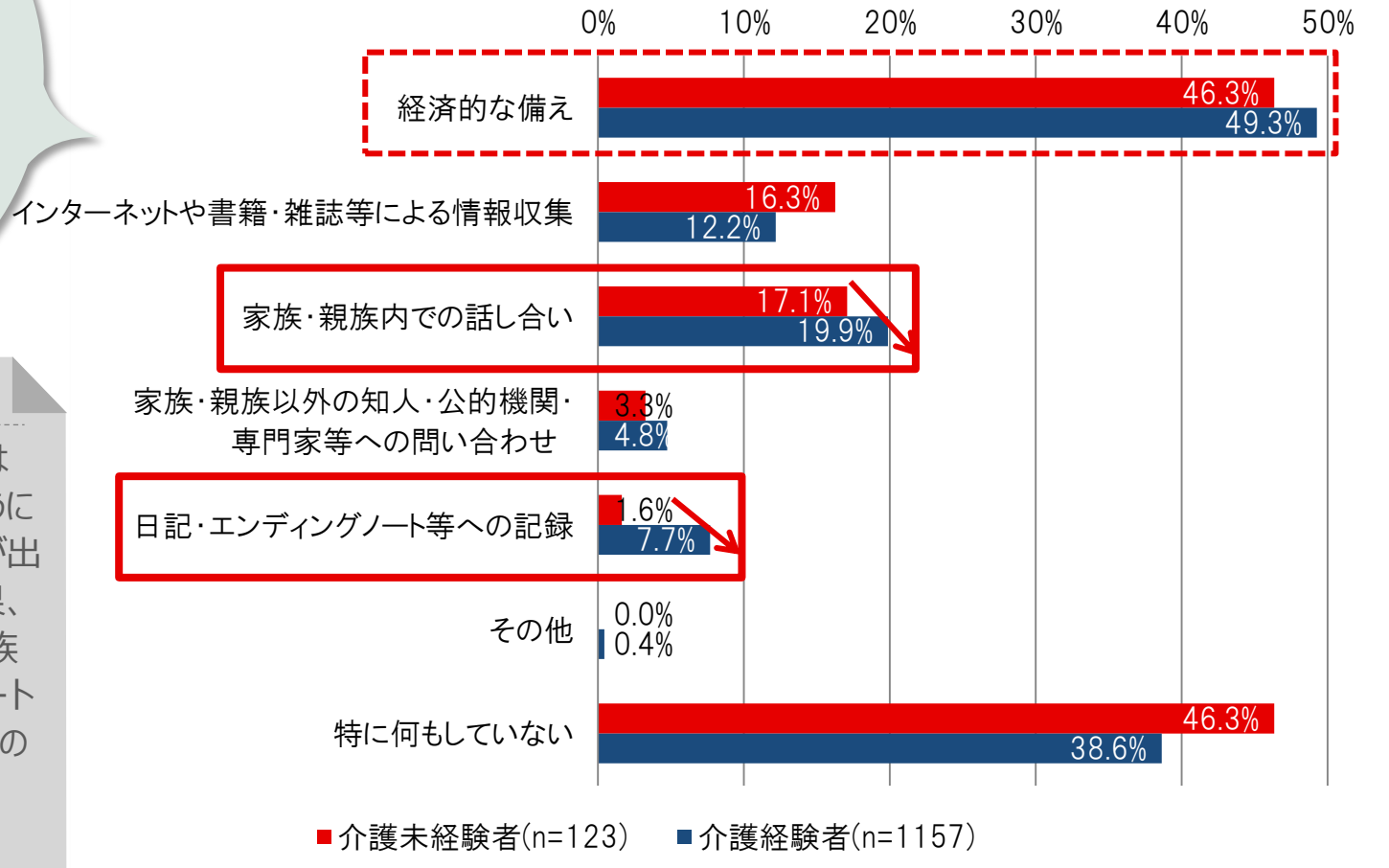
介護への備え

介護経験者は「経済的な備え」に加えて、自身の意思を伝えようとする傾向が確認できる。

経済的な備えは、介護経験の有無に関わらず半数弱の人が実施している。また、「家族内での話し合い」「エンディングノートへの記録」等は、介護経験者の方が実施している人の割合が高い。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合への備え

(n＝1,280)　(複数回答)



所感

親の介護に携わると、自身または配偶者の介護に際してはどのようにしてほしいかとの具体的な意向が出てくるものと予想できる。その結果、自身の意思を伝えるために、家族内での話し合いやエンディングノート等への記録をする人が出てくるものと考えられる。

MUFG

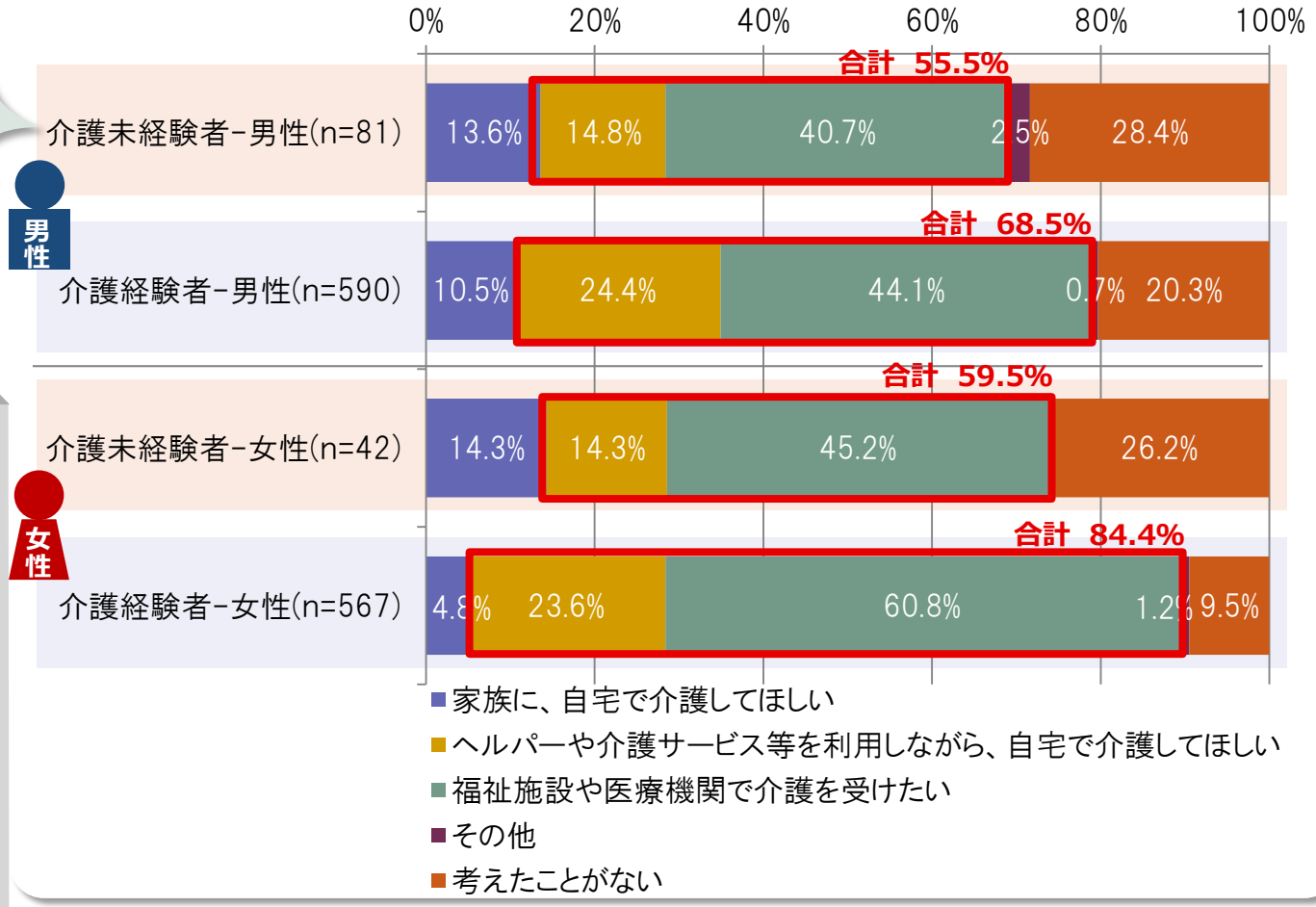
自身/配偶者の介護をどのようにしてほしいか

介護経験者は、何らかの介護サービスを交えて介護してほしいとの意向を持つ人の割合が高い。

介護経験者は、「ヘルパーや介護サービス」「福祉施設や医療機関」といった何らかの介護サービスの活用意向を持つ人の割合が高くなる傾向が確認できる。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合の身の回りの世話を、どのようにしてほしいか

(n＝1,280)　(単回答)



所感

特に女性は、介護経験者の8割強の人が、自身または配偶者の介護に際し、何らかの介護サービスの活用を希望していることが確認できる。

MUFG

【自身/配偶者の介護について】

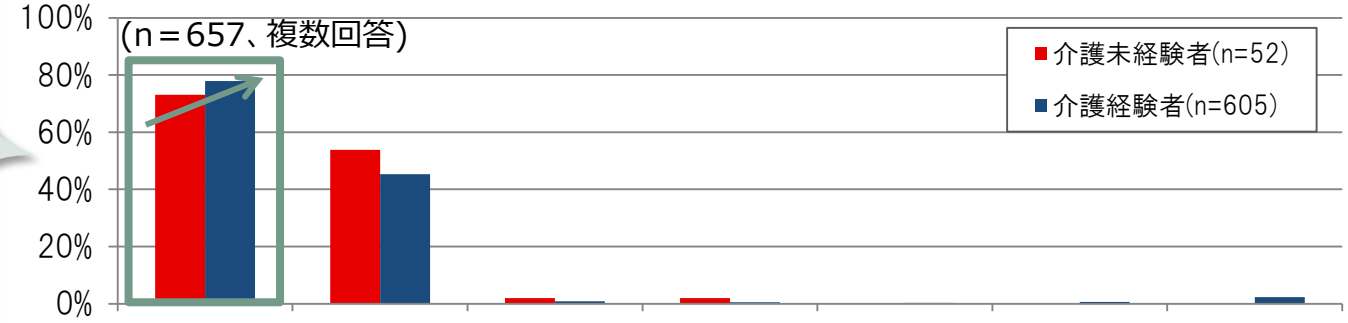
介護サービスを交えて介護をしてほしい理由

施設で介護を受けたい人は、介護経験に関わらず「家族に迷惑を掛けたくない」との意向を持つ人の割合が高い。

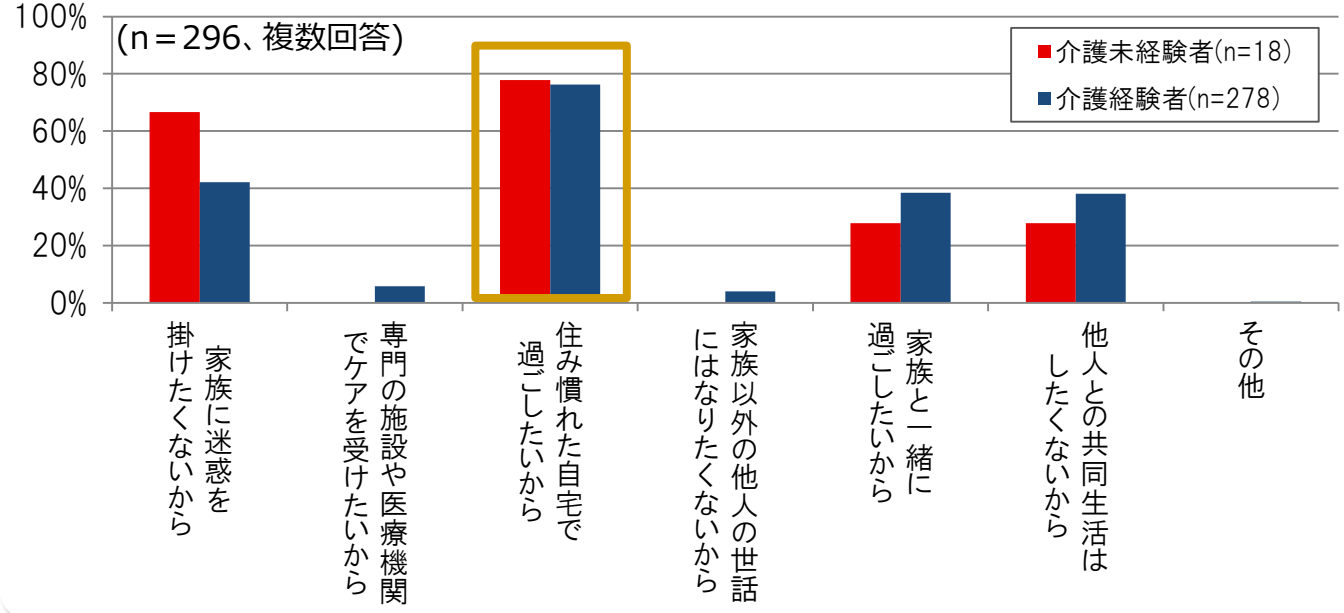
施設での介護を希望する人は「家族に迷惑を掛けたくない」との意向を持つ人が多く、自宅で介護サービスを活用しながらの介護を希望する人は「住み慣れた自宅で過ごしたい」との意向を持つ人が多い。

前頁回答(介護状態になった場合の身の回りの世話をどうしてほしいか)の理由

「福祉施設や医療機関で介護を受けたい」と回答した人の理由



「ヘルパーや介護サービス等を利用しながら、自宅で介護してほしい」と回答した人の理由



所感

前頁より、介護経験者は未経験者と比較して「福祉施設や医療機関で介護を受けたい」との希望を持つ人の割合が高いことを考慮すると、介護経験者の方が「家族に迷惑を掛けたくない」との意向を持つ人が多いと考えられる。

MUFG

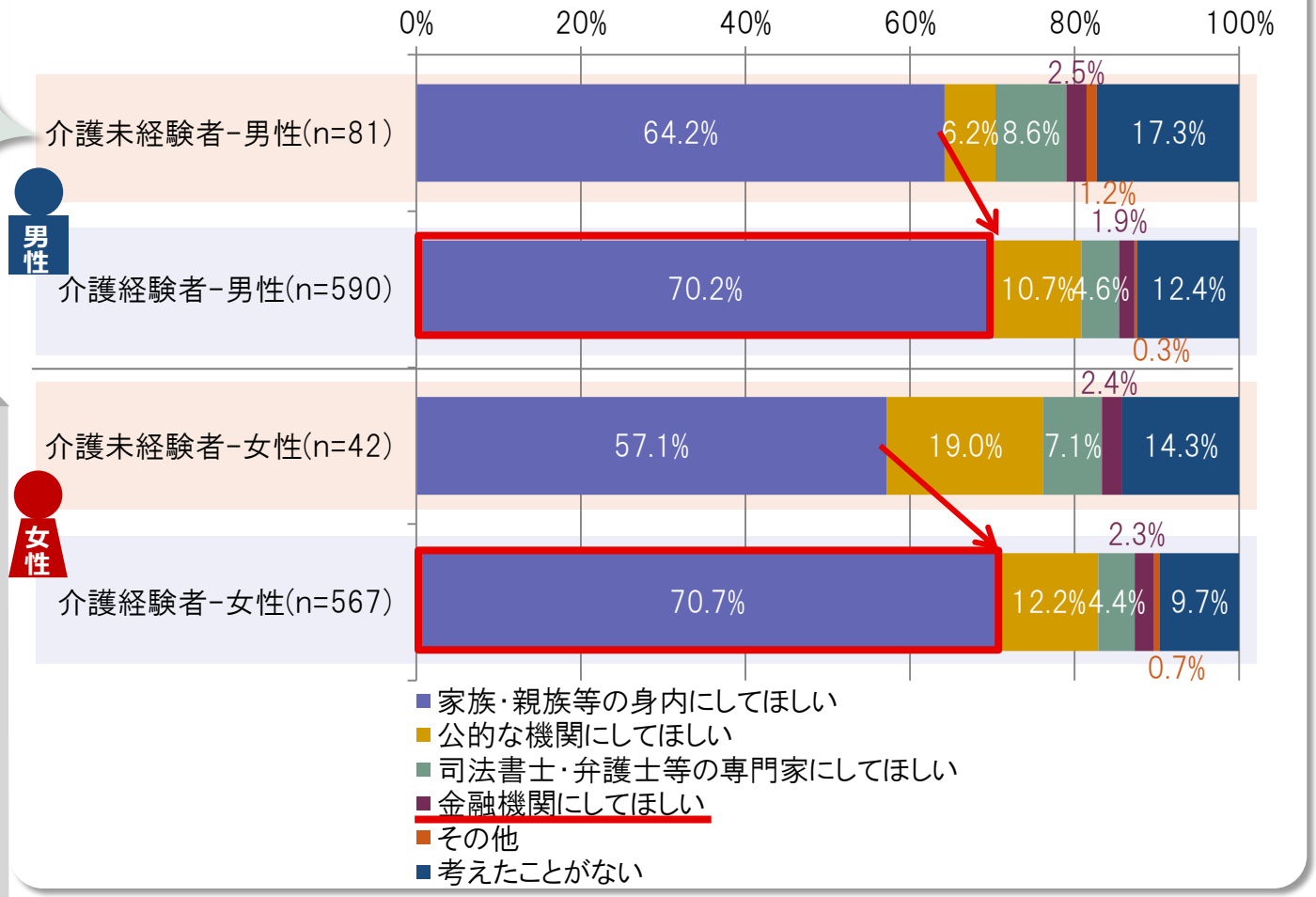
自身/配偶者の資産管理を誰にしてほしいか

資産管理は「身内にしてほしい」との意向を持つ人の割合が高い。

資産管理は「身内にしてほしい」との意向を持つ人の割合が高く、男女を問わず、介護経験者の方がその意向を持つ人の割合が高い傾向が確認できる。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合の資産管理を、どのようにしてほしいか

(n＝1,280)　(単回答)



所感

例えば預貯金の管理や日常資金の引き出し、各種支払等、介護経験者自身が親の代わりに実施していたことを、自身または配偶者が介護状態になった場合にも「身内に」してほしいと考えている可能性があると想定できる。
なお、金融機関に資産管理をしてほしい人は3%以下と少数。

MUFG

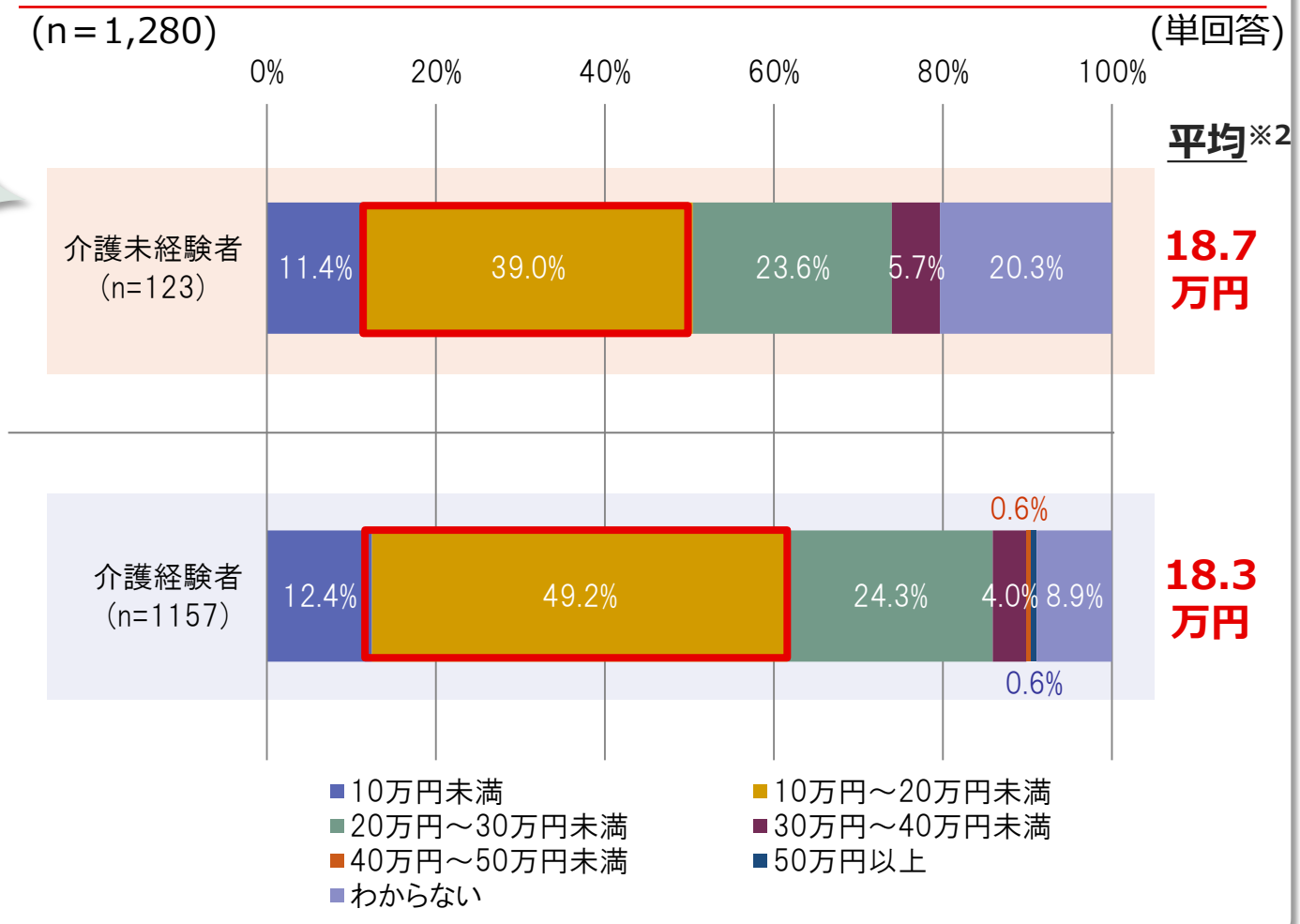
【自身/配偶者の介護について】

ひと月あたりの介護費用の想定

介護経験の有無に関わらず、介護費用は月10万円~20万円と想定する人の割合が高い。

介護費用は月10万~20万円と想定する人の割合が高い。
なお、介護未経験者の約2割は介護費用がいくら掛かるか「わからない」と回答。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合のひと月あたり介護費用の想定額



所感

介護費用(毎月支払った費用)の平均は、在宅の場合は5.0万円、施設の場合は11.7万円(全体では7.9万円)(※1)。
なお、自身の老後のライフプランを検討するにあたっては、要介護認定の区分や自己負担額の程度等、公的介護保険制度への正しい理解も大切。

※1:公益財団法人生命保険文化センター「平成27年度生命保険に関する全国実態調査」より
※2:アンケート回答(「わからない」を除く)を基に、MUFG資産形成研究所にて算出した平均値

MUFG

1-3.（ご参考）世帯類型による認識の違い

世帯類型別に、自身の介護への不安等についての傾向を紹介。

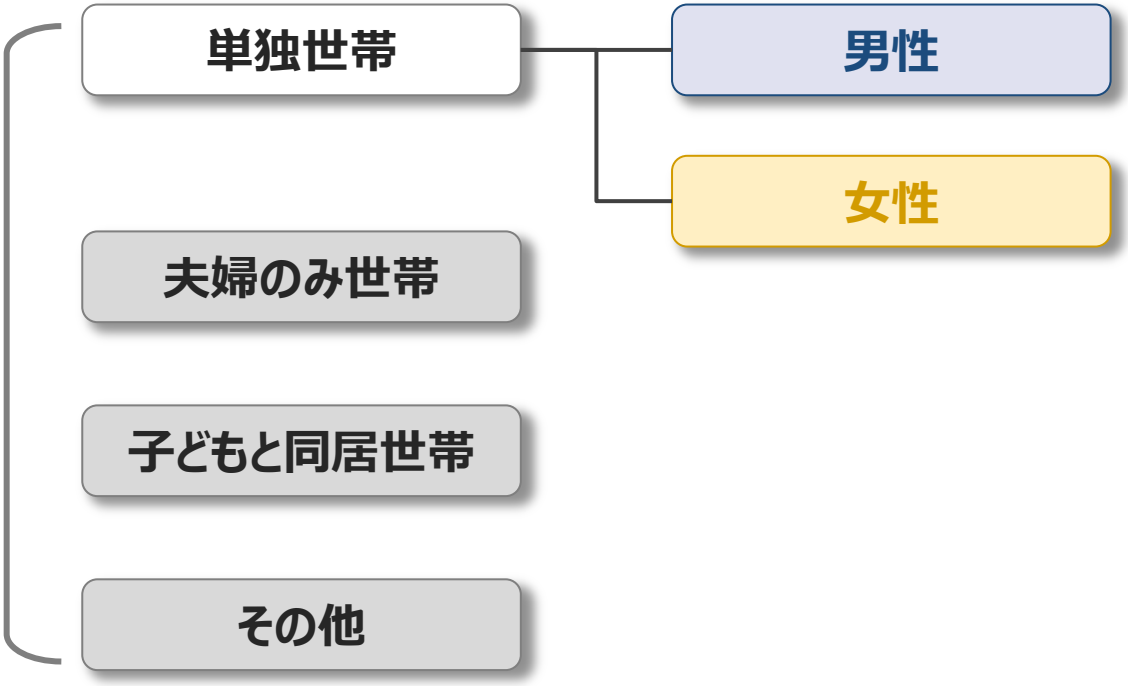
MUFG

世帯類型の違いについて

- 本章では、世帯を以下のとおり分類して傾向を確認する。

  ※介護に対しては、「性別」による認識の差があることが確認できたため、単独世帯については男性・女性に分けて傾向を確認。

本章における世帯の分類

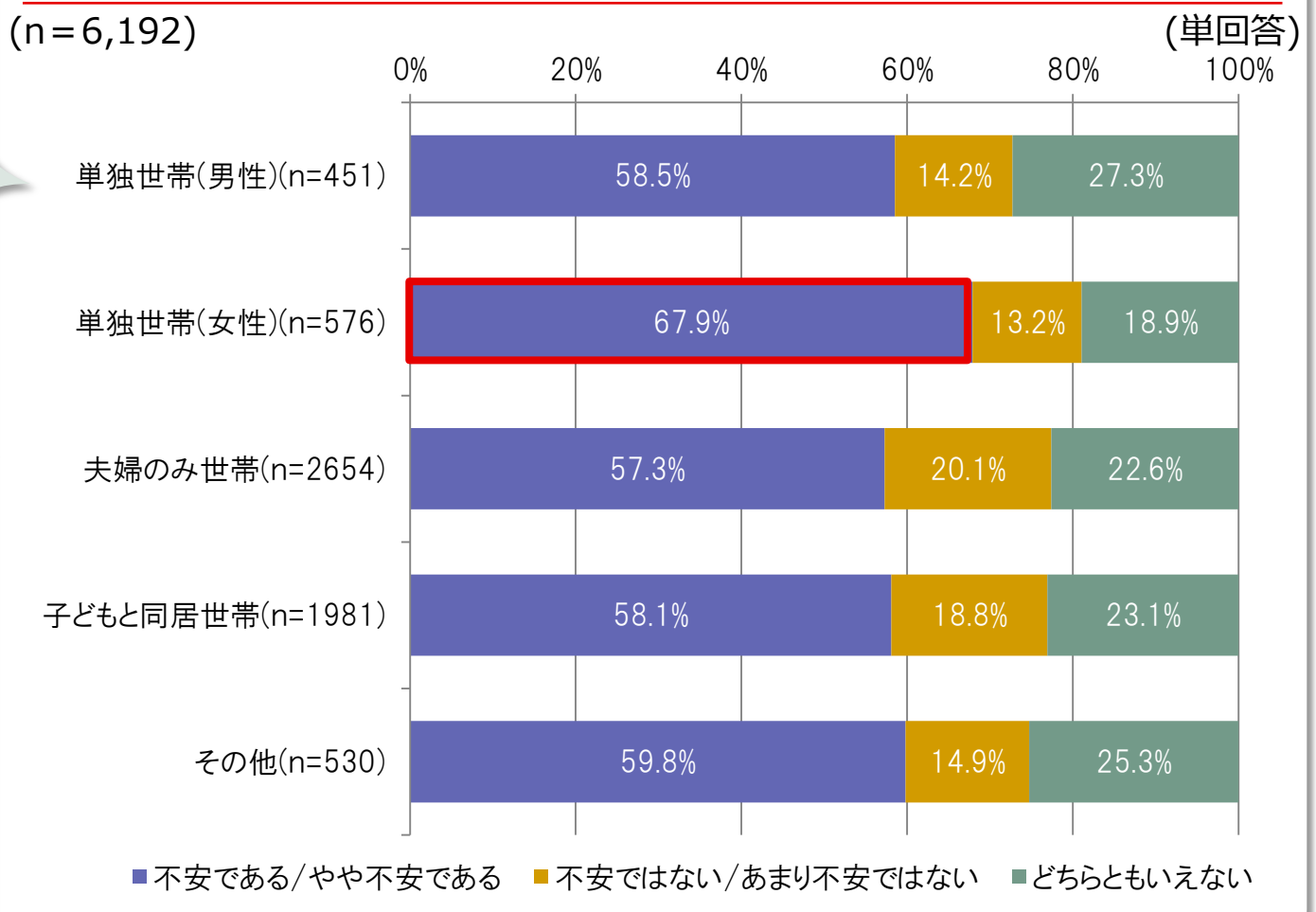


介護状態(認知症含む)を想定しての不安の有無

世帯類型別では、単独世帯(女性)で「不安がある」とする人の割合が高い。

自身または配偶者が介護状態になった場合を想定して不安に感じている人の割合は、「単独世帯の女性」が特に高い。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合を想定した際の不安の有無



所感

単独世帯は、日常生活で身近に頼れる人がいないケースが多いことが想定されるため、他の世帯よりも不安が大きいと考えられる。ただし、同じ単独世帯でも、男性と女性とでは不安に感じている人の割合に差があることが確認できる。以降の頁では「単独世帯(女性)」について、「単独世帯(男性)」や他の世帯類型との比較も交えて、不安の内容や将来への備えについて傾向を確認する。

MUFG

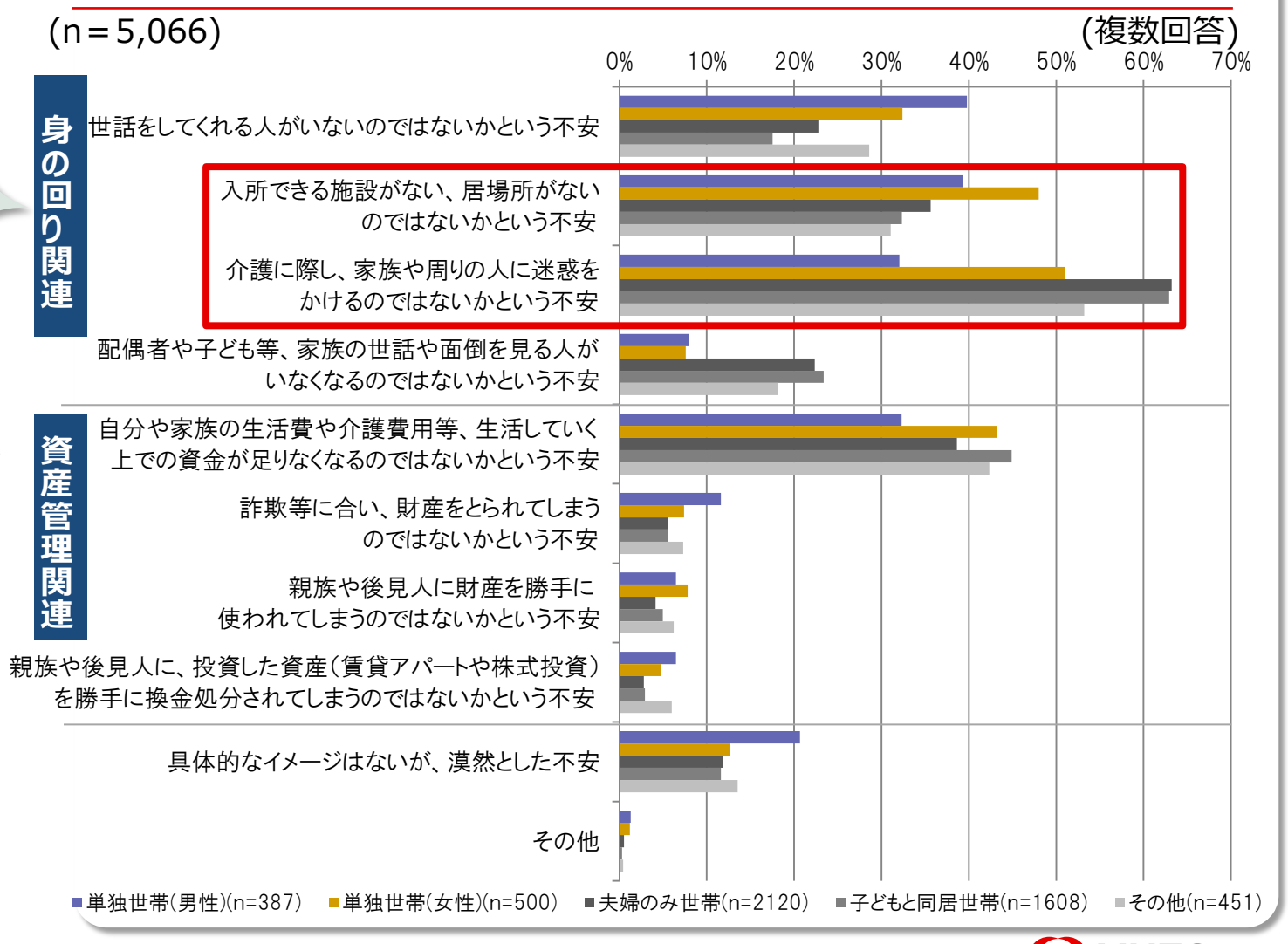
介護状態（認知症含む）を想定しての不安の内容

単独世帯の女性は「周囲への負担」「居場所の確保」等を不安に感じる人の割合が高い。

全体の傾向として、「身の回り関連の不安」の方が、「資産管理関連の不安」よりも大きい。単独世帯の女性は、中でも「周囲への負担」「居場所の確保」等の不安を持つ人の割合が高い。

前頁(介護状態になった場合を想定した際の不安の有無)で
「不安である/やや不安である」「どちらともいえない」と回答した方へ

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合を想定した際の不安の内容



所感

単独世帯(女性)は、上記に次いで、「生活資金が足りなくなる」ことが不安だとする人の割合が高い。

MUFG

自身/配偶者の介護への備え

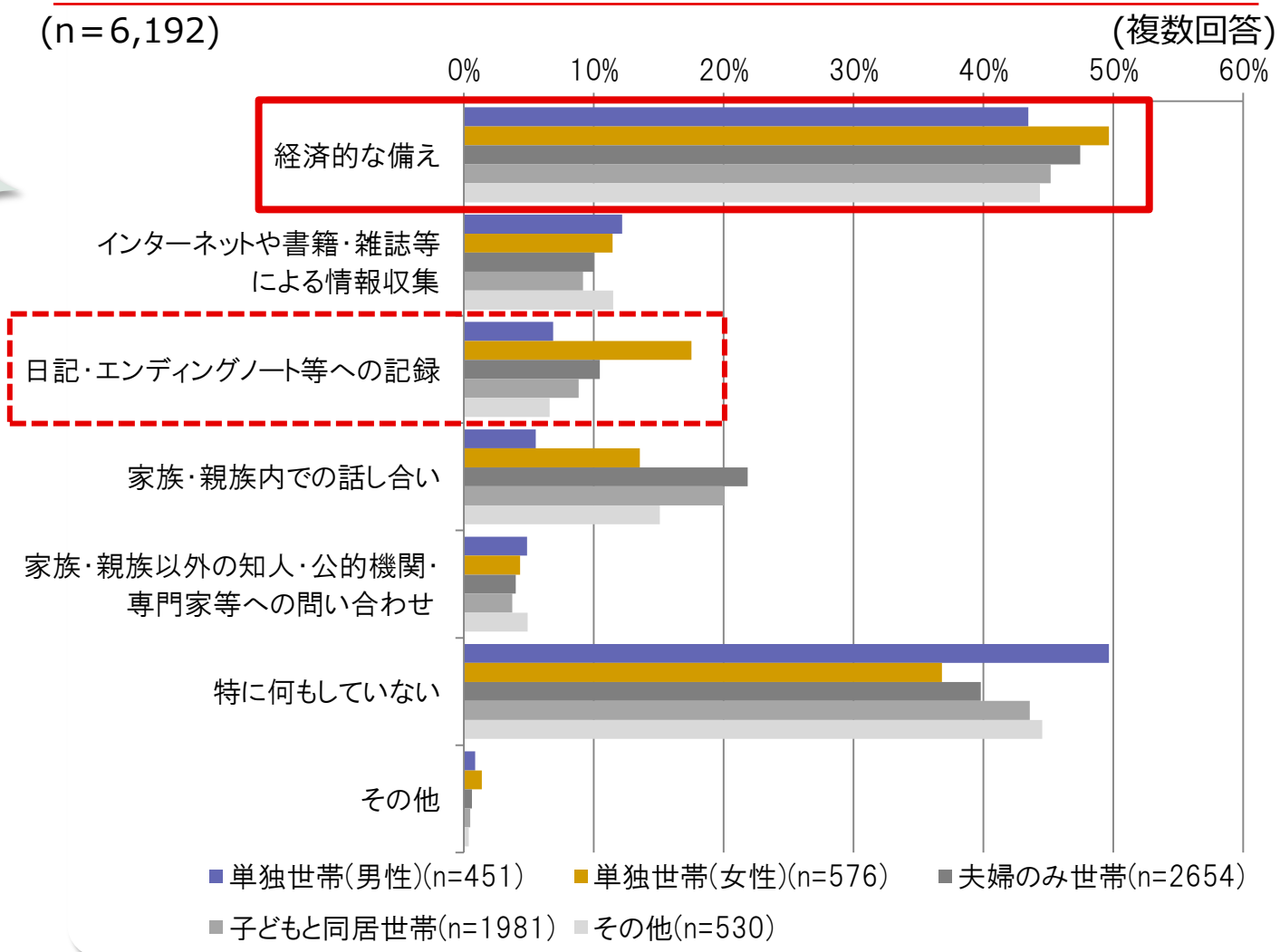
単独世帯の女性は、「経済的な備え」をしている人の割合が相対的に高い。

単独世帯(女性)は、約半数が「経済的な備え」をしている。また、「日記・エンディングノート等」について、他の世帯よりも活用している人の割合が高い傾向がある。

所感

単独世帯(男性)は、自身または配偶者の介護への備えについて「特に何もしていない」とする人が多く、同じ単独世帯でも、男女による傾向の差が確認できる。

自身または配偶者が介護状態(認知症含む)になった場合への備え



MUFG

2. 資産承継に対する認識

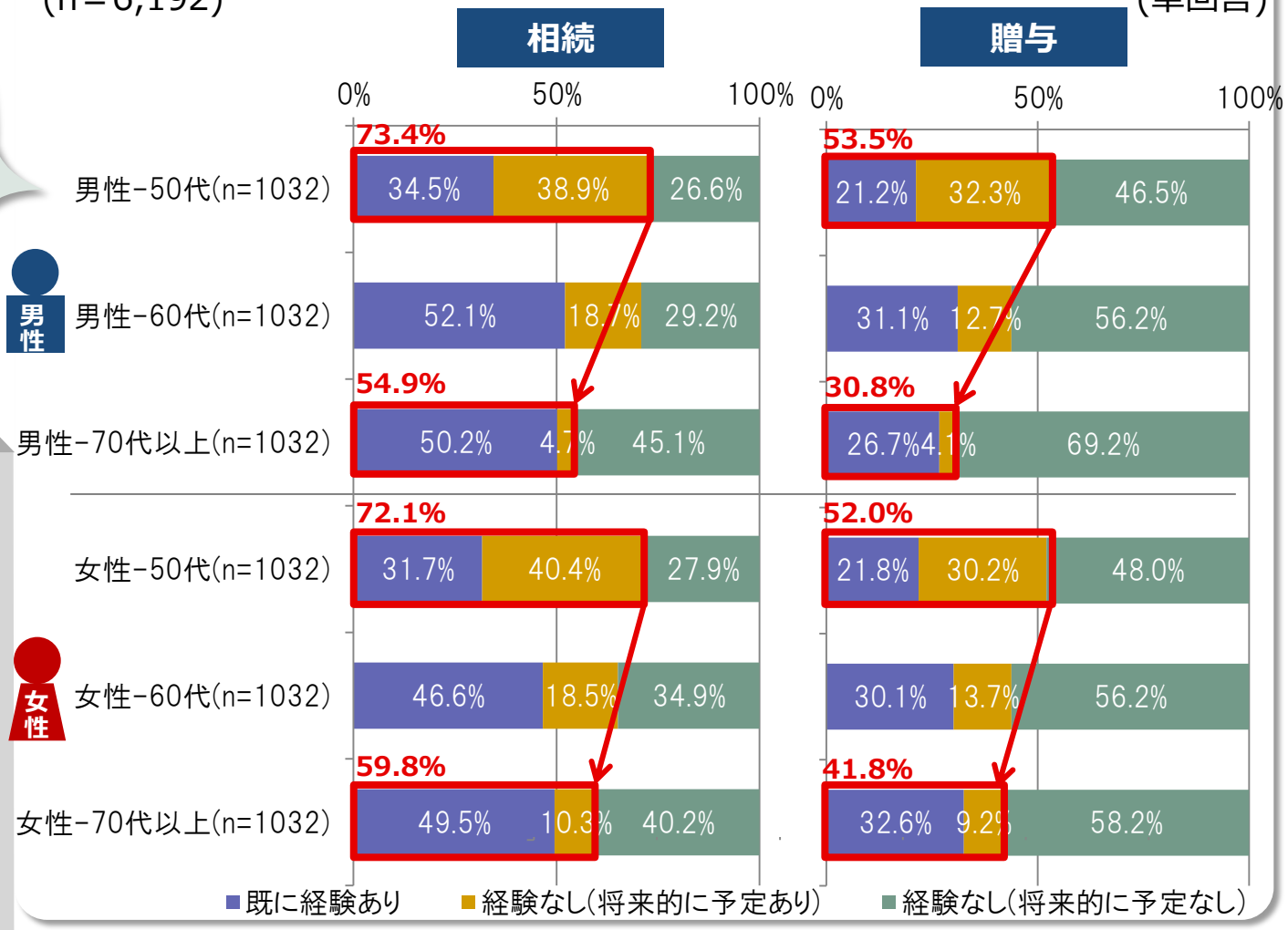
相続/贈与を受けた経験(受ける予定)

50代の人が想定する程、実際には相続・贈与を受ける人は多くない可能性がある。

相続・贈与に関し、「既に経験あり」または「将来的に予定あり」を選択した人の割合は、年代が上がる程少ない傾向が確認できる。

自身が相続または贈与を受けた経験(受ける予定)の有無

(n＝6,192)　(単回答)



所感

50代の人が想定する程には、70代以上の人は相続・贈与を実際には受けておらず、「将来的に予定あり」とする人を含めても、この傾向は変わらない。
特に贈与は、70代で「経験なしかつ将来的にも予定なし」とする人の割合が男性は約7割、女性は約6割と、相続よりも多い傾向。

MUFG

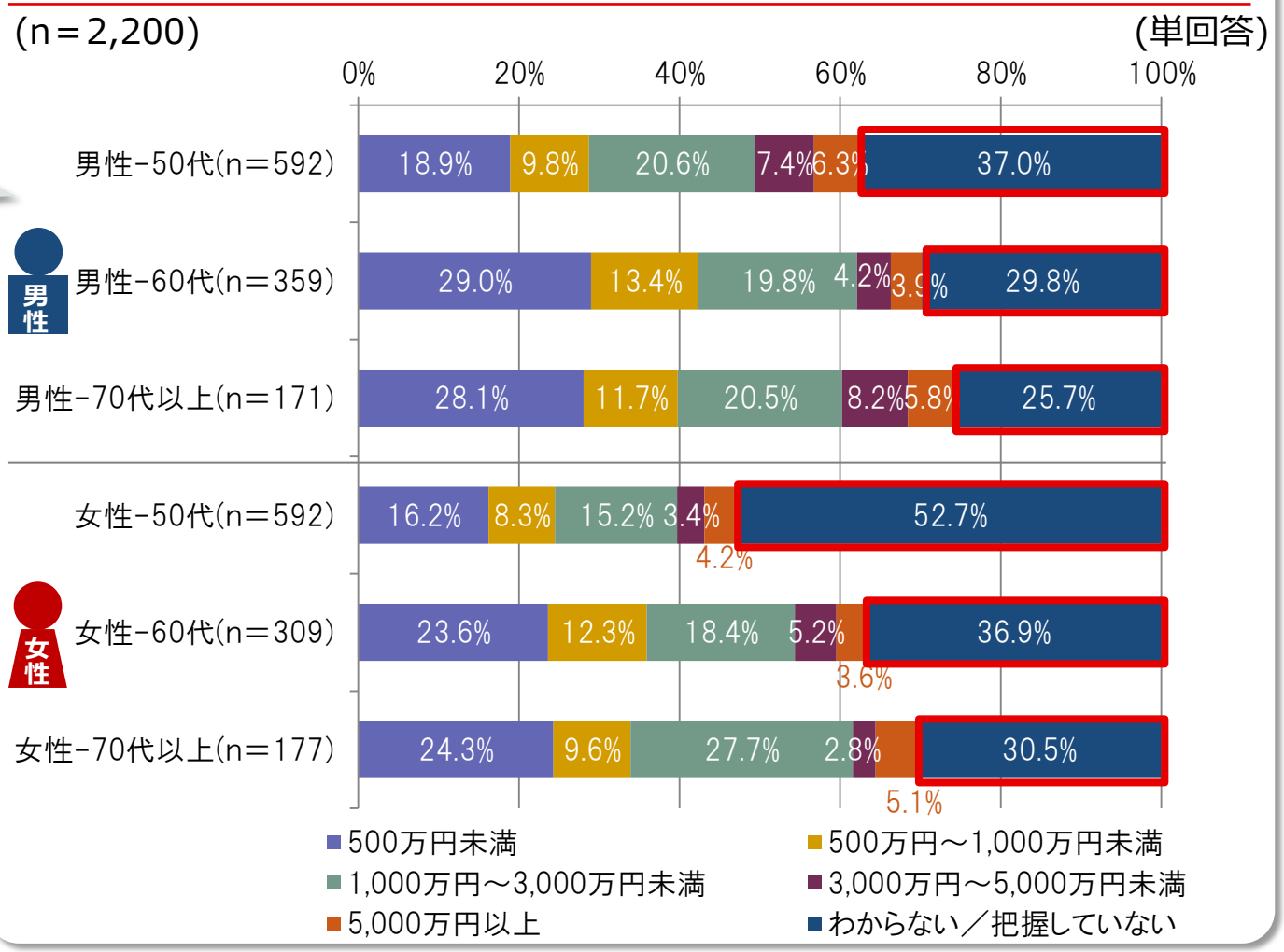
承継を受ける予定の金額

自身または配偶者が承継する予定の金融資産額を「把握していない」人が一定数存在する。

自身または配偶者が将来、承継する予定の資産について、「把握していない」と回答する人が多い。特に女性はその傾向が顕著に見られ、50代では過半数が把握していないとしている。

自身または配偶者が、将来的に
「相続または贈与を受ける予定がある」と回答した方へ

承継を受ける予定の金融資産額



所感

ただし、「把握していない」とする人の割合は、年代が上がる程低くなる傾向が見られ、自身または配偶者が承継を受ける資産への関心は高まるものと思われる。

MUFG

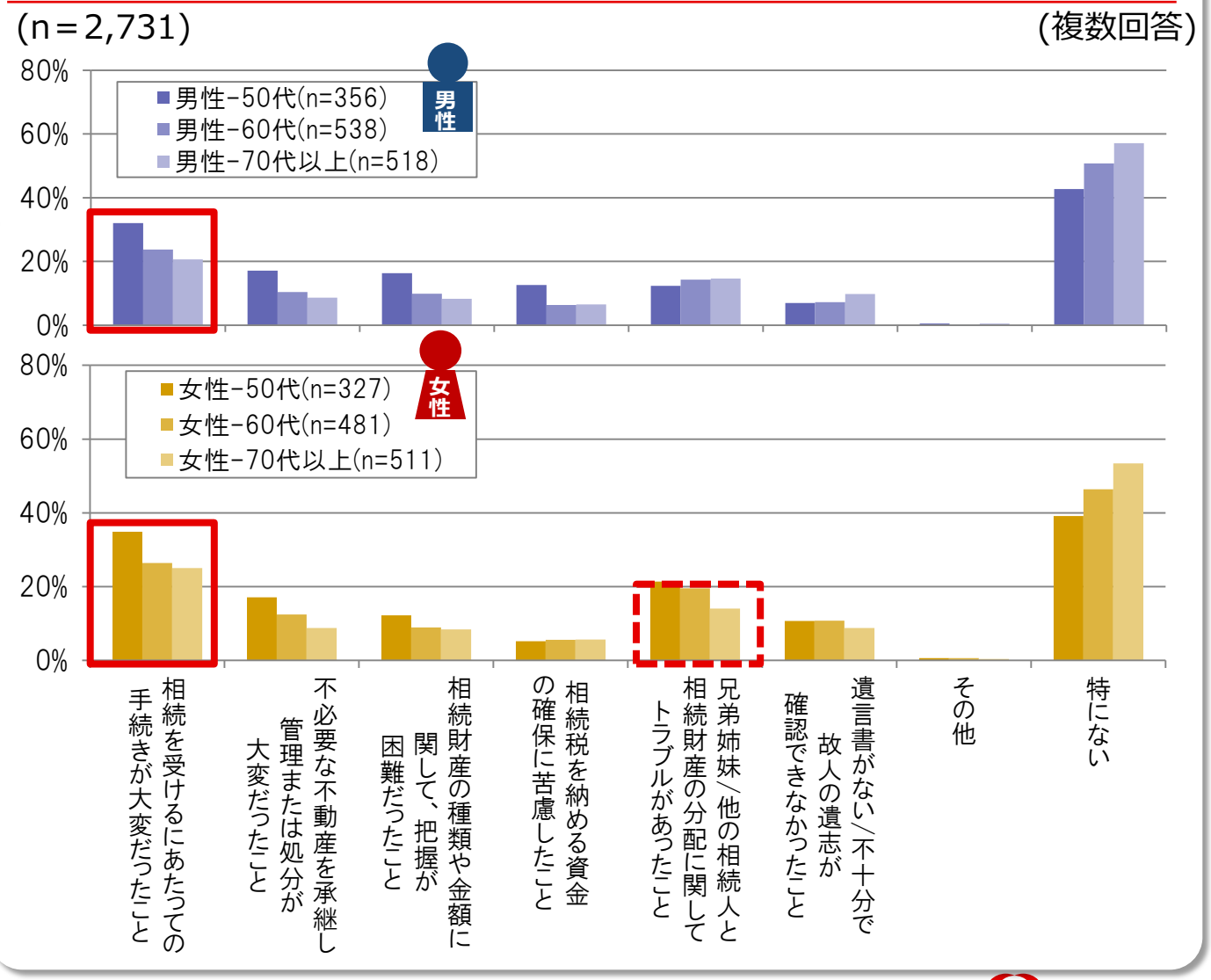
相続を受けるにあたって困ったこと

相続に伴う困り事としては、「手続き」を挙げる人の割合が高い。

相続を受けた経験がある人は、「手続き」が大変だったとする人が一定数存在する。
女性の場合、「相続トラブル」を挙げる人が男性よりも多い点も特徴的。

自身が「既に相続を受けた経験がある」と回答した方へ

相続を受けるにあたって困ったこと



所感

50代程、相続に伴う困り事があったと回答する人が多い。
相続手続きに不慣れな場合や、忙しくて相続手続きをする余裕がない場合は、相続手続きを代行してくれるサービスの活用も選択肢の一つ。

MUFG

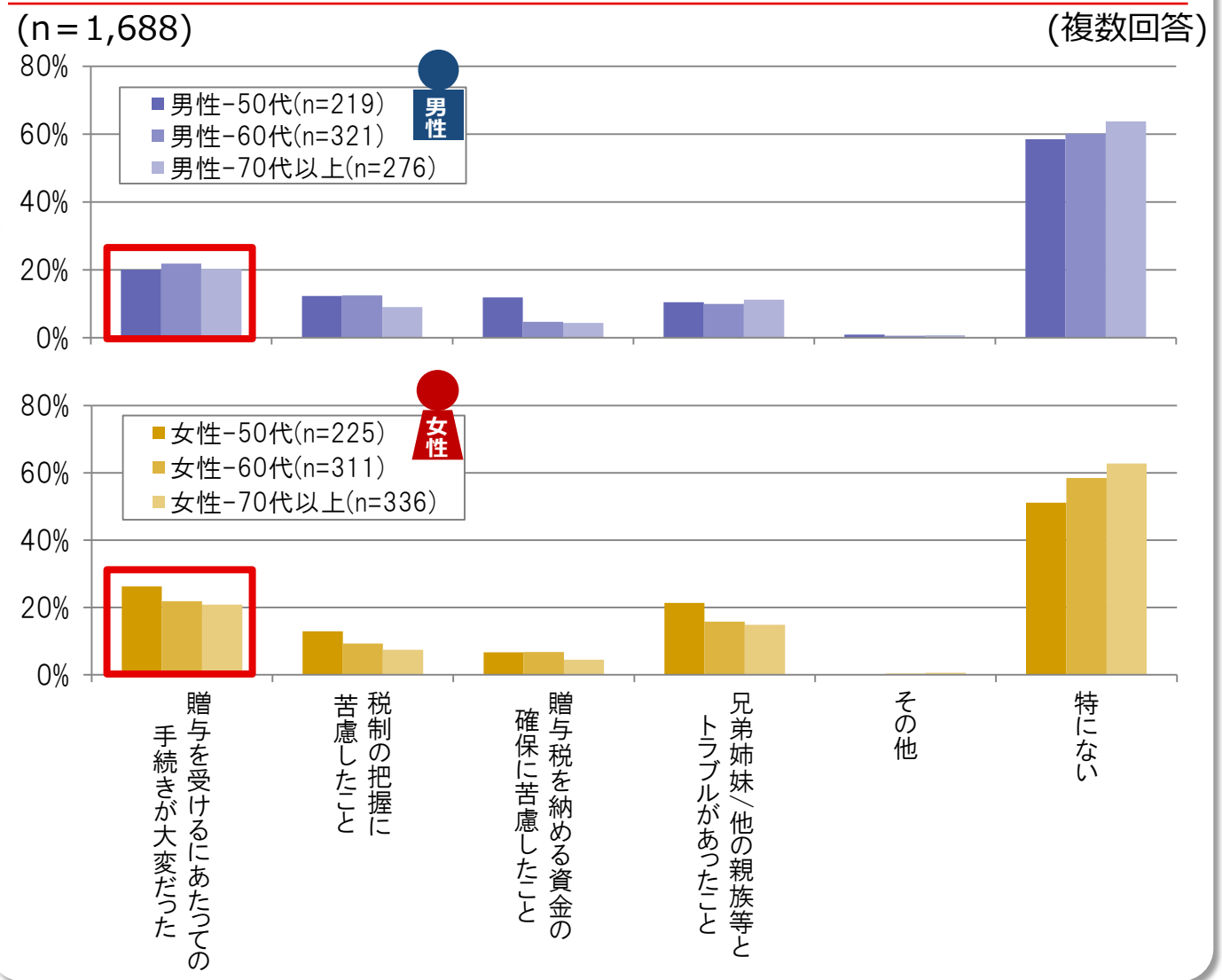
贈与を受けるにあたって困ったこと

贈与に伴う困り事についても、相続と同様「手続き」を挙げる人の割合が高い。

贈与を受けた経験がある人は、相続同様「手続きが大変」とする人が多い。また、次いで「税制の把握に苦慮」を挙げる人も一定数存在する。

自身が「既に贈与を受けた経験がある」と回答した方へ

贈与を受けるにあたって困ったこと



所感

贈与についても、手続きを負担に感じている人が多数存在する。教育資金の贈与や、暦年贈与の手続き等をサポートする商品の活用も選択肢の一つ。

MUFG

保有資産を配偶者/子に残したいか

配偶者や子に保有資産を残したいとの意向を持つ人が多い。

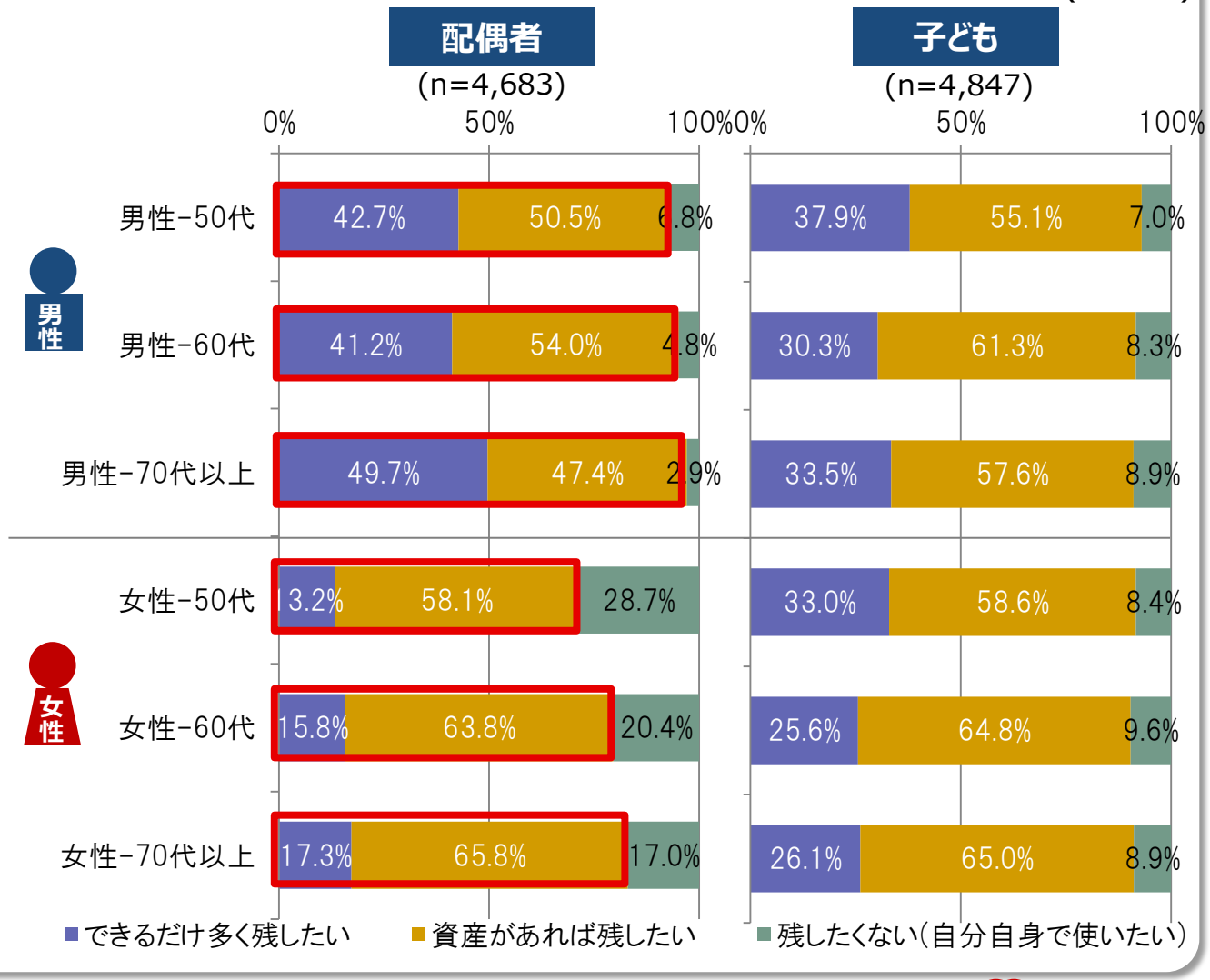
自身の保有資産について、配偶者や子どもに残したいとの意向を持つ人が多い。
ただし、女性が夫に残したいとする人の割合は、男性が妻に残したいとする人の割合よりも低い。

所感

女性の場合、自身が夫よりも長生きする可能性が高いとの認識からか、「配偶者に残したくない(自分で使いたい)」と答えた人の割合が男性よりも高い。
一方で、子どもに対しては、男女とも「残したい」との意向を持つ人の割合が高い傾向。

自身が保有している資産を配偶者・子どもに残したいか

(単回答)



ご留意事項

- MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が、現役世代から退職後の世代までを対象に資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の取得・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものです。また、本資料は三菱UFJ信託銀行が各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、三菱UFJ信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱UFJ信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。
本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、三菱UFJ信託銀行までご連絡ください。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行　資産形成アドバイザリー部
E-mail：mufg-sisan_post@tr.mufg.jp

MUFG

三菱UFJ信託銀行株式会社　資産形成アドバイザリー部
〒100-8212　東京都千代田区丸の内1-4-5

www.tr.mufg.jp/shisan-ken/

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。